

四国圏在住者から見た
中国地方の観光地の実態と魅力度

報告書

平成 28 年 1 月

中 国 経 済 連 合 会

目 次

1. 調査概要	1
1) 調査目的	1
2) 調査手法及びサンプル数	1
3) 観光エリアの設定	2
2. 調査結果	4
1) 回答者属性	4
2) 訪問経験	5
3) 満足度	10
4) 交通手段	14
5) 訪問希望地	15
6) 尾道松江線に関連する地域の訪問経験・訪問希望	21
7) 中国地方への旅行	23
8) 中国地方の名称	25
9) 中国地方のイメージ	26
10) 中国地方の特産品	30
11) 周遊ルート	31
3. まとめ	33

1. 調査概要

1) 調査目的

○中国経済連合会は、中国地方の観光地に対する認識や評価について、ウェブアンケート調査を実施している。平成 24 年度には首都圏在住者を対象に、平成 25 年度には関西圏在住者を対象に、平成 26 年度には九州圏在住者を対象に調査を実施した。

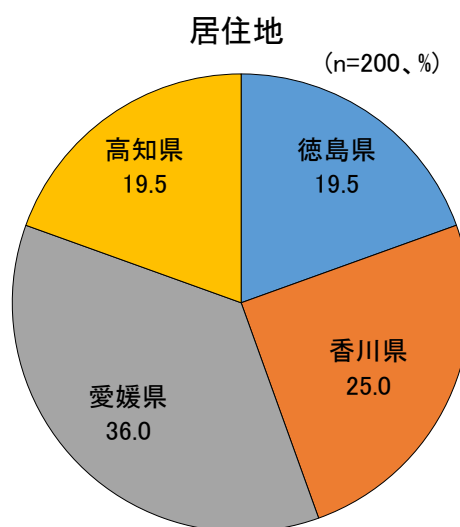
○今回は、隣接圏域である四国圏在住者の中国地方の観光地に対する認識及び評価を把握するため、平成 27 年 10 月に楽天リサーチに委託し、ウェブアンケート調査を実施した。回答者は四国圏（徳島県、香川県、愛媛県、高知県の 4 県）在住者であり、合計で 200 名である。

2) 調査手法及びサンプル数

- ・実施日 : 平成 27 年 10 月 29 日～30 日
- ・調査手法 : インターネット調査（楽天リサーチ）により実施
- ・サンプル数 : 四国圏 200 件

居住地	サンプル数	構成比(%)
徳島県	39	19.5
香川県	50	25.0
愛媛県	72	36.0
高知県	39	19.5
計	200	100.0

※各県の人口構成比に基づきサンプルを取得している。



3) 観光エリアの設定

- ・既存の調査と同様に、中国5県の観光動態調査で設定されているエリアをベースとして、観光入込客数の多い観光エリアを中心に、各県10エリア程度を設定した。
- ・観光エリアのイメージや内容をわかりやすくするため、観光エリアの名称だけでなく、そこに含まれる代表的観光資源について3つ程度付記した。

観光エリア及び代表的観光資源

鳥 取 県	1. 鳥取（鳥取砂丘、浦富海岸、仁風閣など）
	2. 智頭（石谷家住宅、若桜鉄道、氷ノ山など）
	3. 倉吉（白壁土蔵の町並み、三徳山三仏寺など）
	4. 三朝温泉
	5. 羽合（羽合温泉、東郷温泉、燕趙園など）
	6. 北栄（コナン通り、青山剛昌ふるさと館など）
	7. 大山（大山、スキー場、植田正治写真美術館、とっとり花回廊など）
	8. 米子（皆生温泉など）
	9. 境港（水木しげるロード(記念館)など）
島 根 県	10. 松江（松江城、小泉八雲旧居、堀川巡り、宍道湖の夕日など）
	11. 玉造温泉
	12. 出雲（出雲大社、一畑薬師、島根ワイナリー、日御碕灯台など）
	13. 奥出雲（鬼の舌震、亀嵩温泉、絲原記念館（たたら製鉄）など）
	14. 安来（足立美術館、清水寺など）
	15. 石見銀山（石見銀山、三瓶山、温泉津温泉など）
	16. 浜田（石見海浜公園、アクアス（水族館）など）
	17. 邑南（香木の森公園、瑞穂ハイランド（スキー場）など）
	18. 津和野・益田（太鼓谷稲成神社、安野光雅美術館、雪舟庭園など）
岡 山 県	19. 隠岐（隠岐国分寺、玉若酢命神社、知夫赤壁など）
	20. 岡山（後楽園、岡山城など）
	21. 吉備路（吉備津神社、備中国分寺など）
	22. 倉敷（美観地区、大原美術館など）
	23. 児島・玉野（鷺羽山、瀬戸大橋架橋記念館、下津井、渋川海岸など）
	24. 備前（閑谷学校、備前焼、日生諸島など）
	25. 牛窓（牛窓オリーブ園、海水浴場など）
	26. 高梁（備中松山城、吹屋ふるさと村など）
	27. 津山（新庄がいせん桜、城東の町並みなど）
	28. 蒜山高原
	29. 美作三湯（湯原温泉、奥津温泉、湯郷温泉）

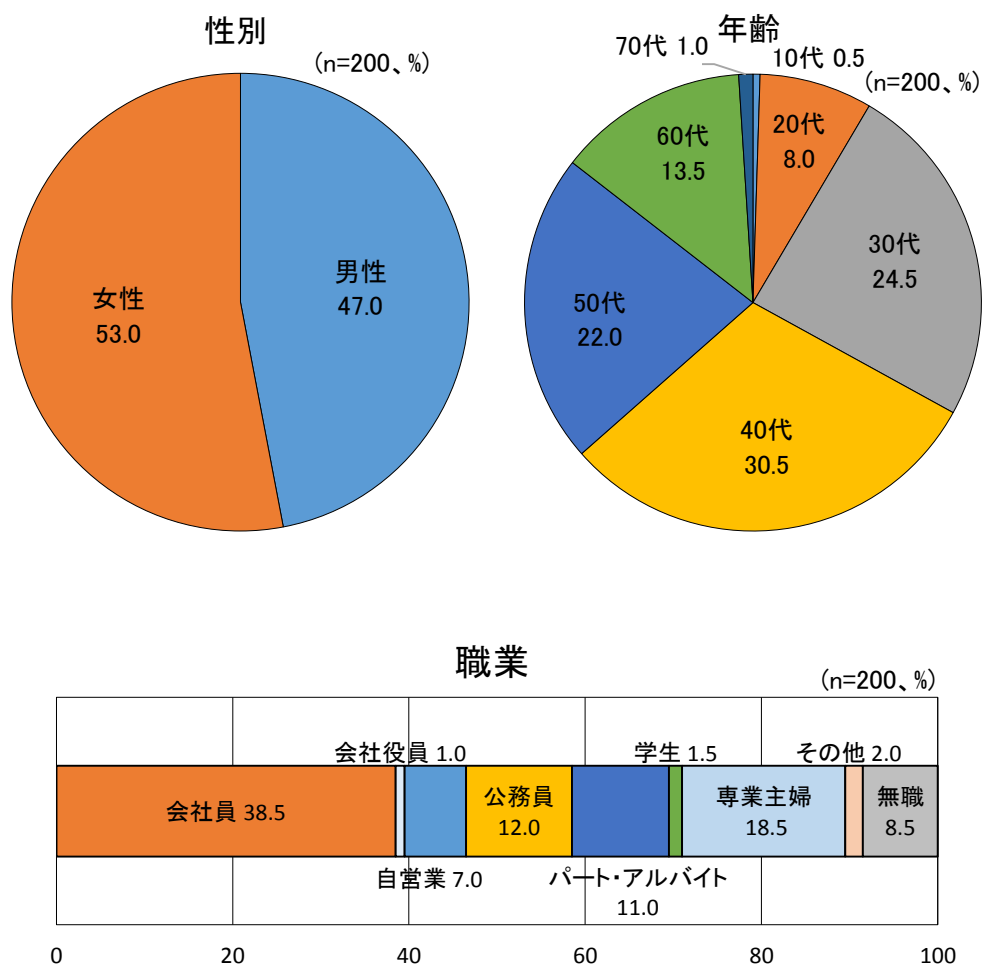
広島県	30. 広島（平和公園、原爆ドーム、お好み村など）
	31. 宮島（厳島神社、弥山、みやじマリン（水族館）など）
	32. 呉・江田島（大和ミュージアム、旧海軍兵学校など）
	33. 竹原（町並み保存地区、大久野島など）
	34. 尾道（千光寺公園、社寺巡り、映画ロケ地など）
	35. しまなみ海道（耕三寺、平山郁夫美術館など）
	36. 福山（鞆の浦、ばら公園、ふくやま美術館など）
	37. 三次・庄原（三次ワイナリー、帝釈峡、国営備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館など）
	38. 安芸高田（土師ダム、神楽門前湯治村など）
	39. 芸北（三段峡、温井ダム、スキー場など）
山口県	40. 下関（海峡ゆめタワー、海響館（水族館）、唐戸市場、赤間神宮など）
	41. 山口（サビエル記念聖堂、湯田温泉、雪舟庭、瑠璃光寺五重塔など）
	42. 秋吉台・秋芳洞
	43. 萩（松下村塾、松蔭神社、萩博物館など）
	44. 長門（湯本温泉、青海島、金子みすゞ記念館、角島大橋など）
	45. 宇部・山陽小野田（ときわ公園、焼野海岸、産業観光など）
	46. 防府（防府天満宮、周防国分寺、毛利庭園など）
	47. 周南・下松・光（笠戸島、回天記念館、室積海岸、虹が浜など）
	48. 柳井・周防大島（白壁の町並み、片添ヶ浜など海水浴場、サザンセットなど）
	49. 岩国（錦帯橋、岩国城、白蛇、美川ムーバレーなど）

2. 調査結果

※以降の調査結果におけるグラフ数値は小数第二位を四捨五入したものである。

1) 回答者属性

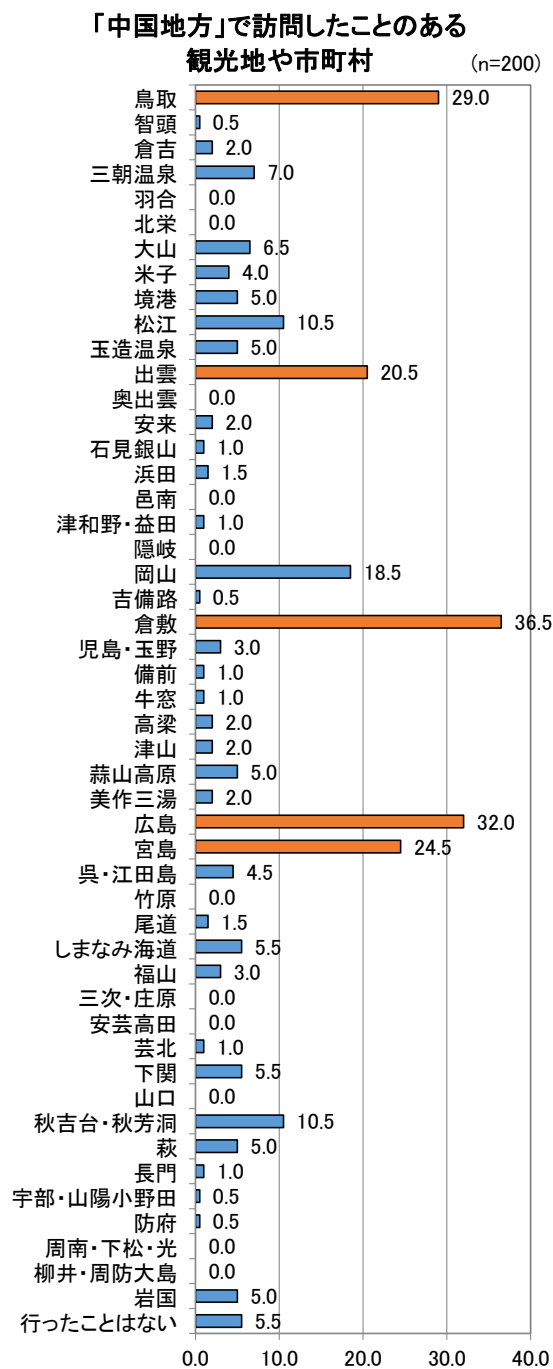
回答者の属性として、性別では女性が若干多く 53.0%、年代は40代～50代で全体の52.5%を占めている。職業は会社員が38.5%と最も多く、次いで専業主婦18.5%、公務員12.0%となっている。



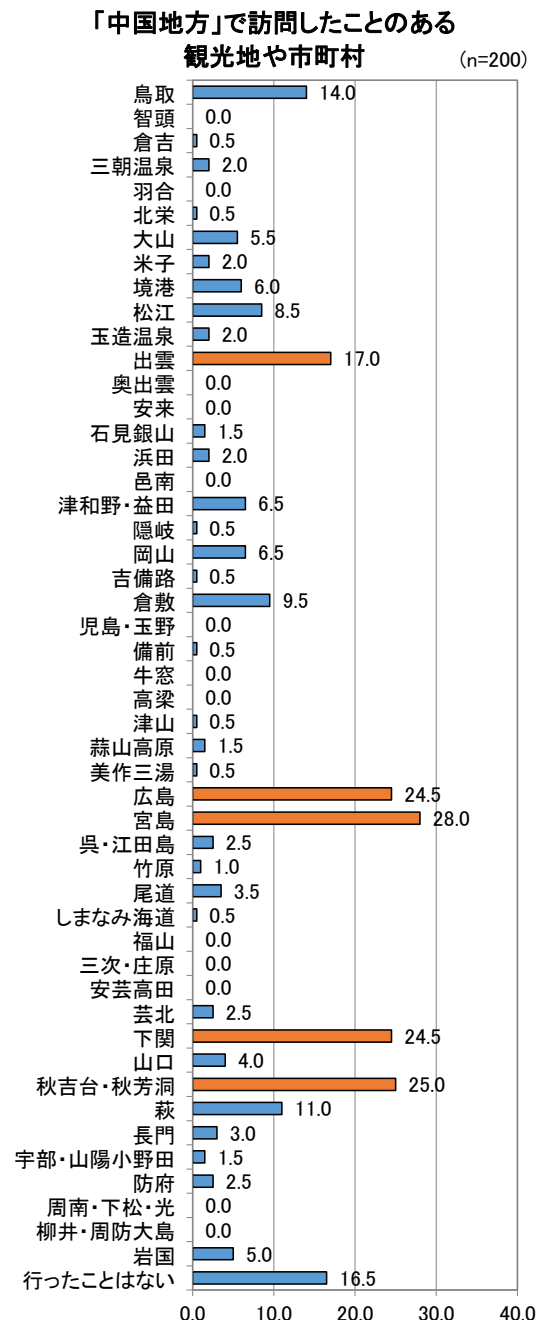
2) 訪問経験

(1) 観光エリア別・全体集計

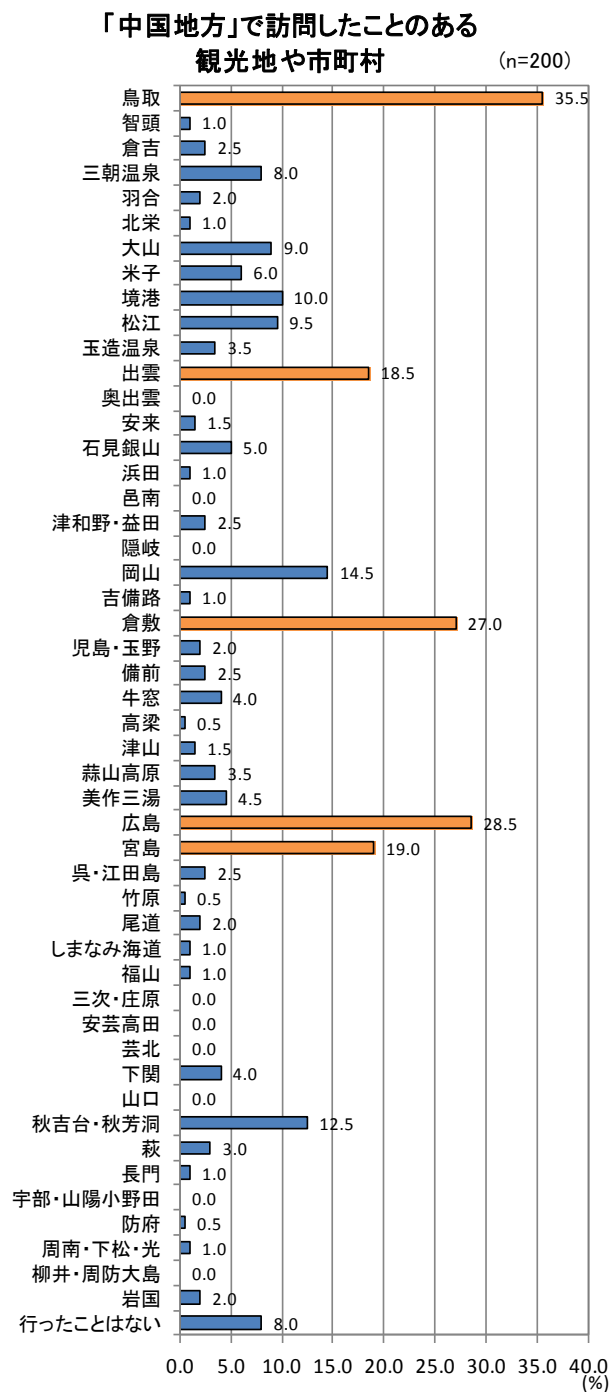
中国地方を49の観光エリアに分け、訪問したことのある観光地や市町村を3箇所まで聞いたところ、最も訪問した人が多かったのは倉敷（36.5%）であり、その割合は過去の他圏域調査の中で最も高い。中国地方へ行ったことはないと回答した人は5.5%と他圏域よりも低くなっていることから、全体的な訪問率が上がっていると考えられる。また、出雲、松江、玉造温泉の訪問率は他圏域よりも高く、平成27年3月22日に全通した中国横断自動車道尾道松江線（以下「尾道松江線」）の影響がみられる。



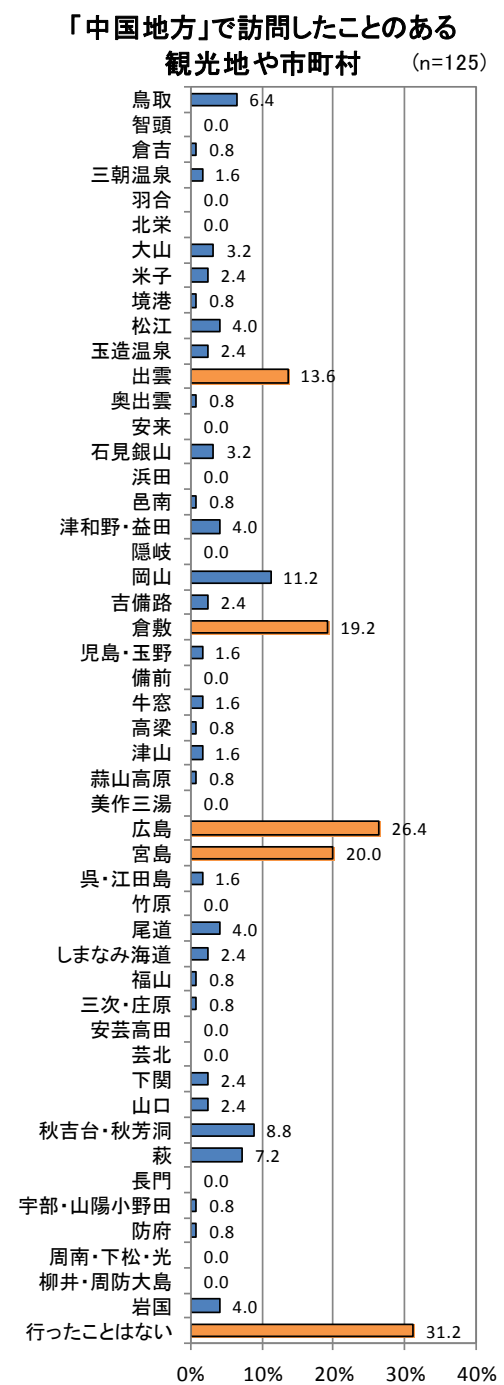
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))



(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))

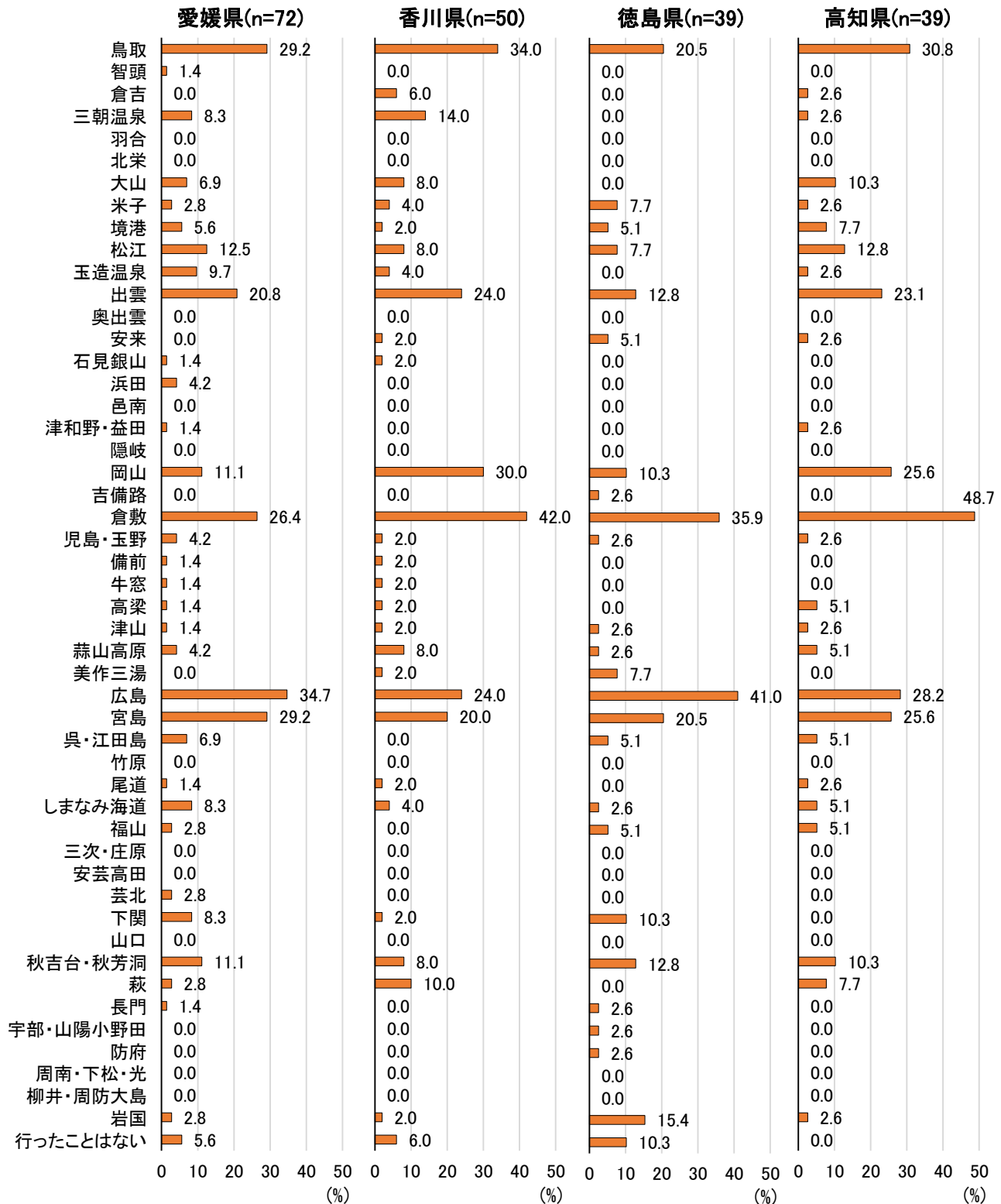


(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))



(2) 観光エリア別・居住県別集計

居住県別にみた場合、愛媛県、徳島県では1位が広島、香川県、高知県では1位が倉敷となるなど、各県によって差異がみられる。



各県の上位を比較すると、重要伝統的建造物群保存地区のある倉敷は各県とも上位に挙げられており、瀬戸大橋を使ったアクセスが容易であることが要因と考えられるが、しまなみ海道の山陽側の起点である尾道は上位5位に入っておらず、全体の訪問率も1.5%と低くなっている。

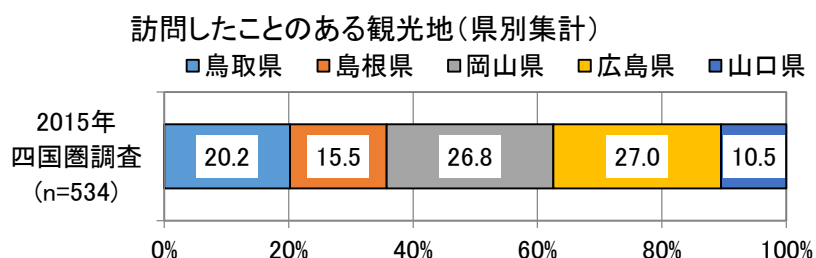
今後、尾道松江線を利用した松江・出雲～尾道間の広域周遊ルートの特PRにより、尾道の訪問率増加が期待される。

四国全体 (n=200)	愛媛県 (n=72)	香川県 (n=50)	徳島県 (n=39)	高知県 (n=39)
1位：倉敷(36.5)	1位：広島(34.7)	1位：倉敷(42.0)	1位：広島(41.0)	1位：倉敷(48.7)
2位：広島(32.0)	2位：鳥取(29.2)	2位：鳥取(34.0)	2位：倉敷(35.9)	2位：鳥取(30.8)
3位：鳥取(29.0)	2位：宮島(29.2)	3位：岡山(30.0)	3位：鳥取(20.5)	3位：広島(28.2)
4位：宮島(24.5)	4位：倉敷(26.4)	4位：出雲(24.0)	3位：宮島(20.5)	4位：岡山(25.6)
5位：出雲(20.5)	5位：出雲(20.8)	4位：広島(24.0)	5位：岩国(15.4)	4位：宮島(25.6)
－：尾道(1.5)	－：尾道(1.4)	－：尾道(2.0)	－：尾道(0.0)	－：尾道(2.6)

※カッコ内は割合(%)

(3) 訪問県別集計

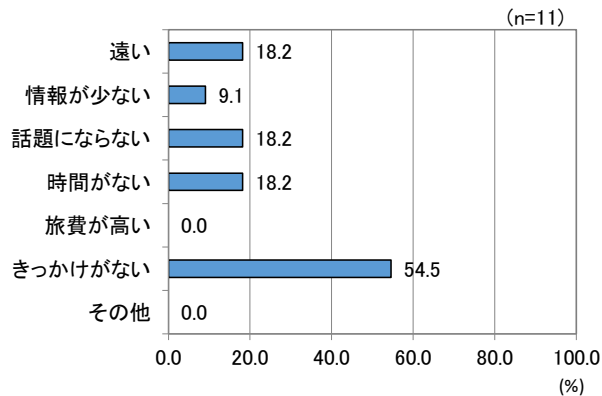
訪問したことのある観光地の回答を県別に合計したところ、広島県が27.0%と最も多く、ついで岡山県26.8%となっており、瀬戸大橋、瀬戸内しまなみ海道や航路で繋がっている地域の訪問割合が高くなっている。



(4) 未訪問理由

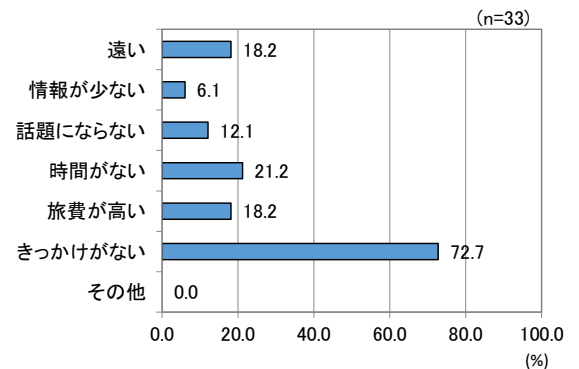
本調査において中国地方に行ったことがない人は 5.5%（11 人）であったが、それらの回答者に対しその理由を聞いたところ、「きっかけがない」との回答が 54.5%と最も多かった。関西圏調査結果と比べ「情報が少ない」、「話題にならない」という回答が多く、同じ隣接圏域である関西圏よりも情報が少ないと思われる。

「中国地方」に行ったことがない理由



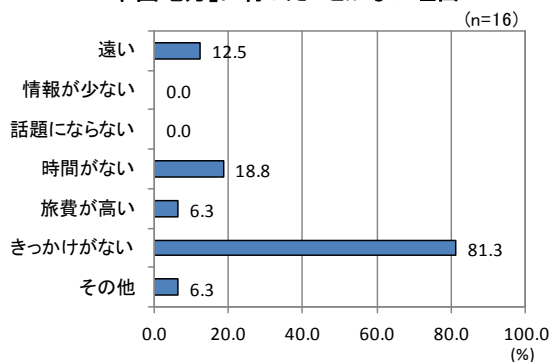
(参考:九州圏調査結果(平成 26 年度))

「中国地方」に行ったことがない理由



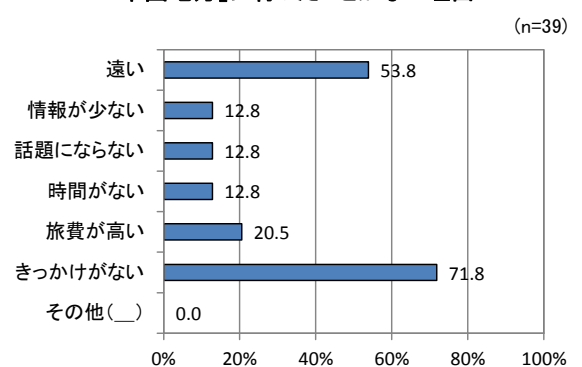
(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))

「中国地方」に行ったことがない理由



(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))

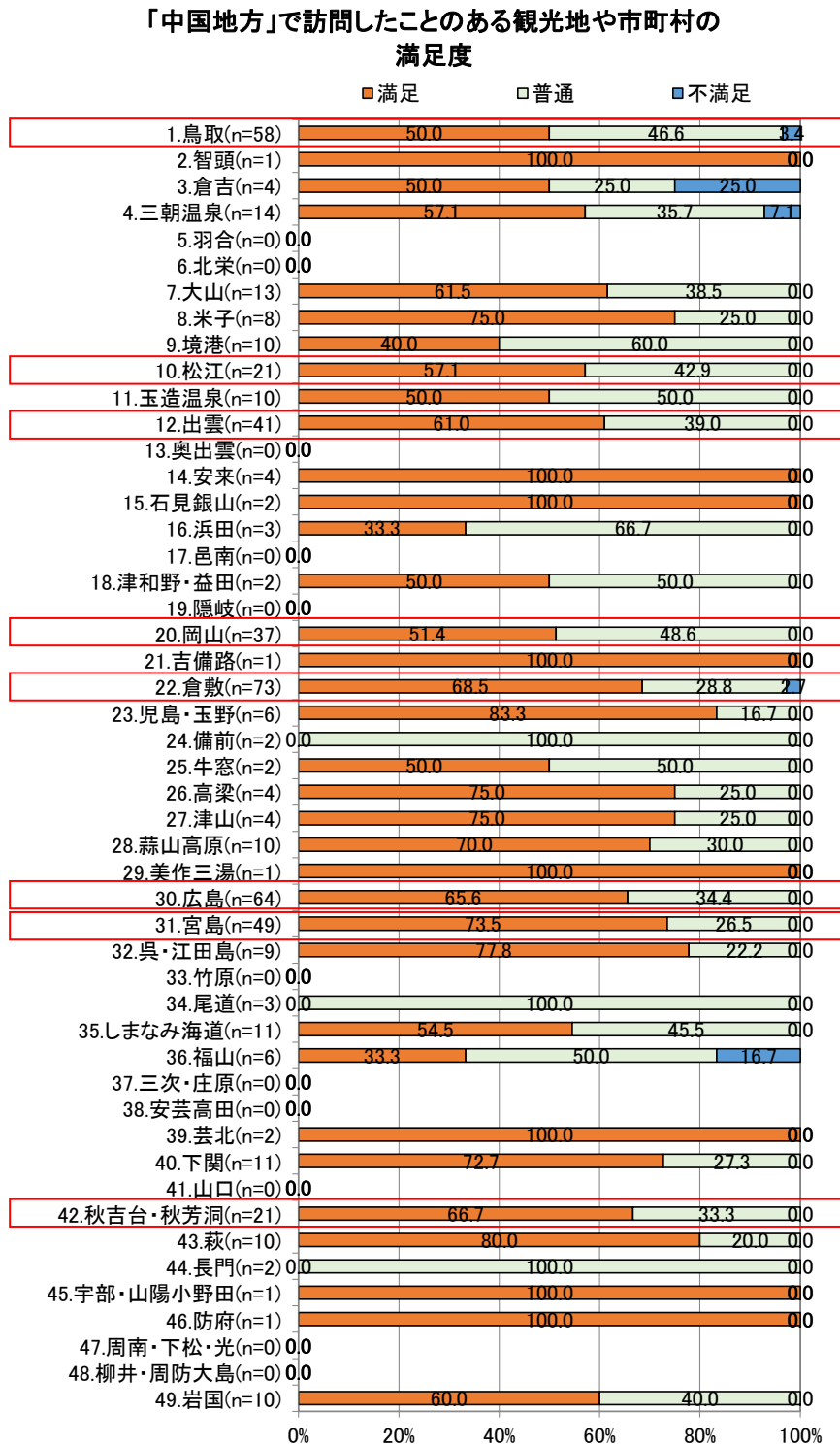
「中国地方」に行ったことがない理由



3) 満足度

(1) 観光エリア別・全体集計

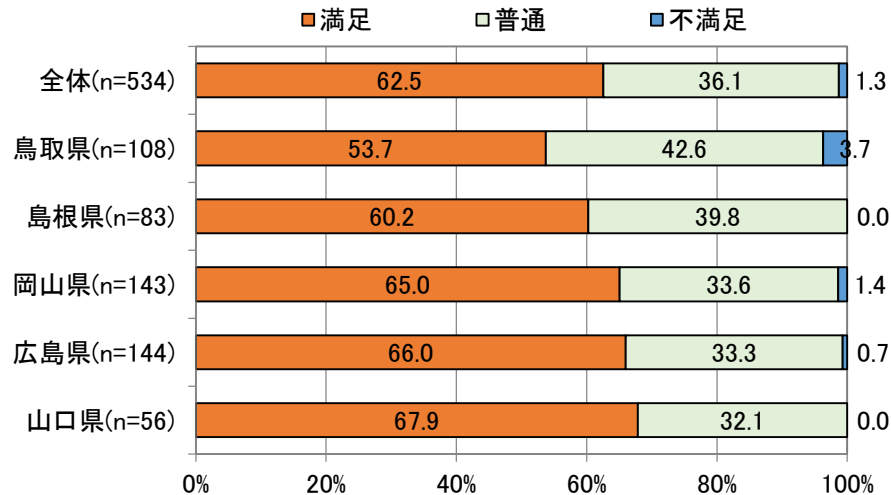
訪問したことのある観光地や市町村に対する満足度を聞いたところ、以下のような結果となった。訪問経験者の多い地域（サンプル 20 名以上、以下赤枠囲み部分）の「満足」の割合に着目すると、宮島、倉敷、秋吉台・秋芳洞、広島で高くなっている。



(2) 訪問県別集計

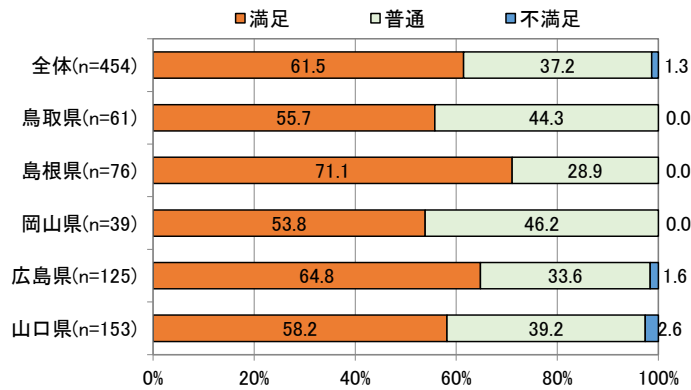
上記の各地の満足度を集計したところ、全体の「満足」は 62.5%と高く、「不満足」は 1.3%と少ない。訪問県別にみると、各県とも「満足」という評価が過半数となっている。

訪問先の満足度(訪問県別)



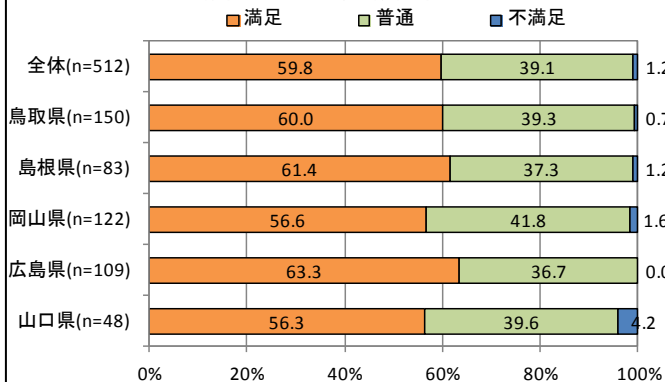
(参考:九州圏調査結果(平成 26 年度))

訪問先の満足度(訪問県別)



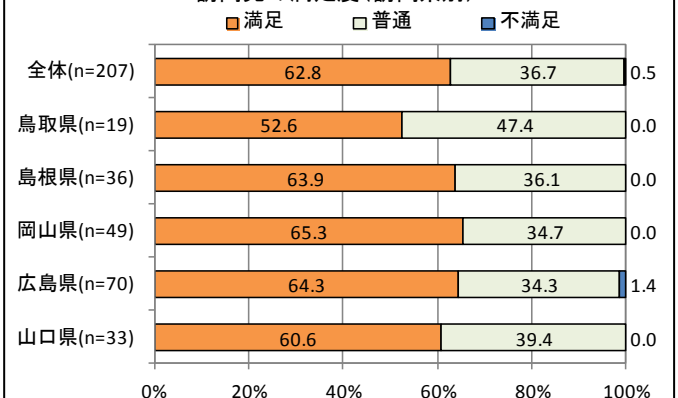
(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))

訪問先の満足度(訪問県別)



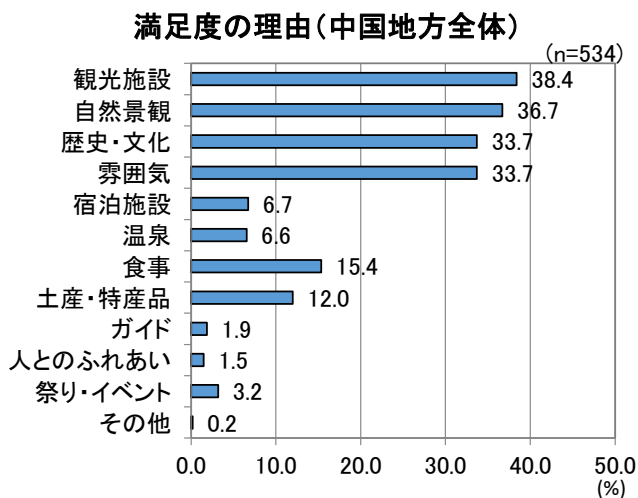
(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))

訪問先の満足度(訪問県別)

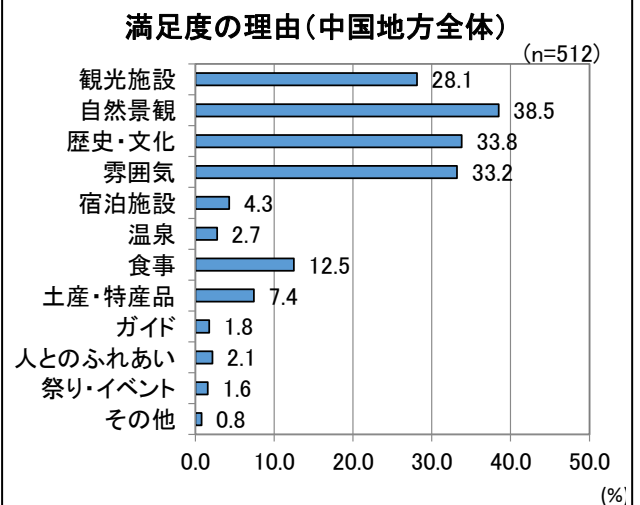


(2) 満足度の理由

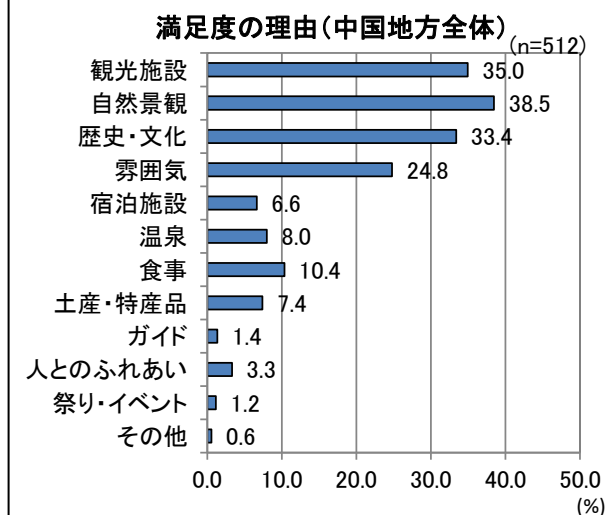
前問の満足度評価の理由をみると、中国地方全体としては美術館・博物館や水族館などの「観光施設」が 38.4%と最も高く、ついで「自然景観」が 36.7%、「歴史・文化」、「雰囲気」が 33.7%となっている。これまでの首都圏、関西圏、九州圏の調査と異なる傾向であり、四国圏から見た中国地方のセールスポイントの最大要素として「観光施設」が挙げられ、次いで自然景観、歴史・文化、雰囲気を含めて中国地方の観光の魅力が形成されていることがわかる。



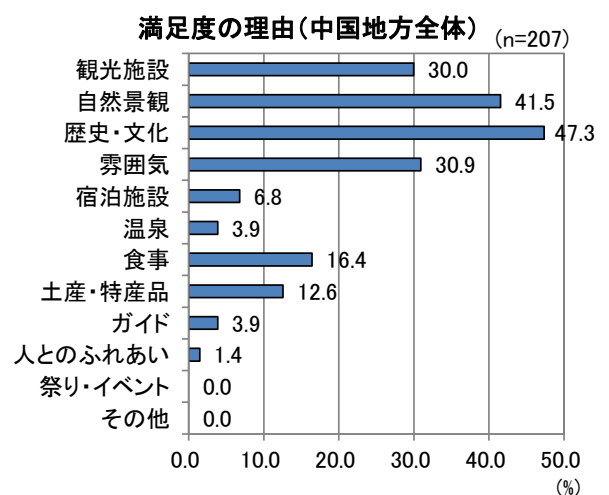
(参考:九州圏調査結果(平成 26 年度))



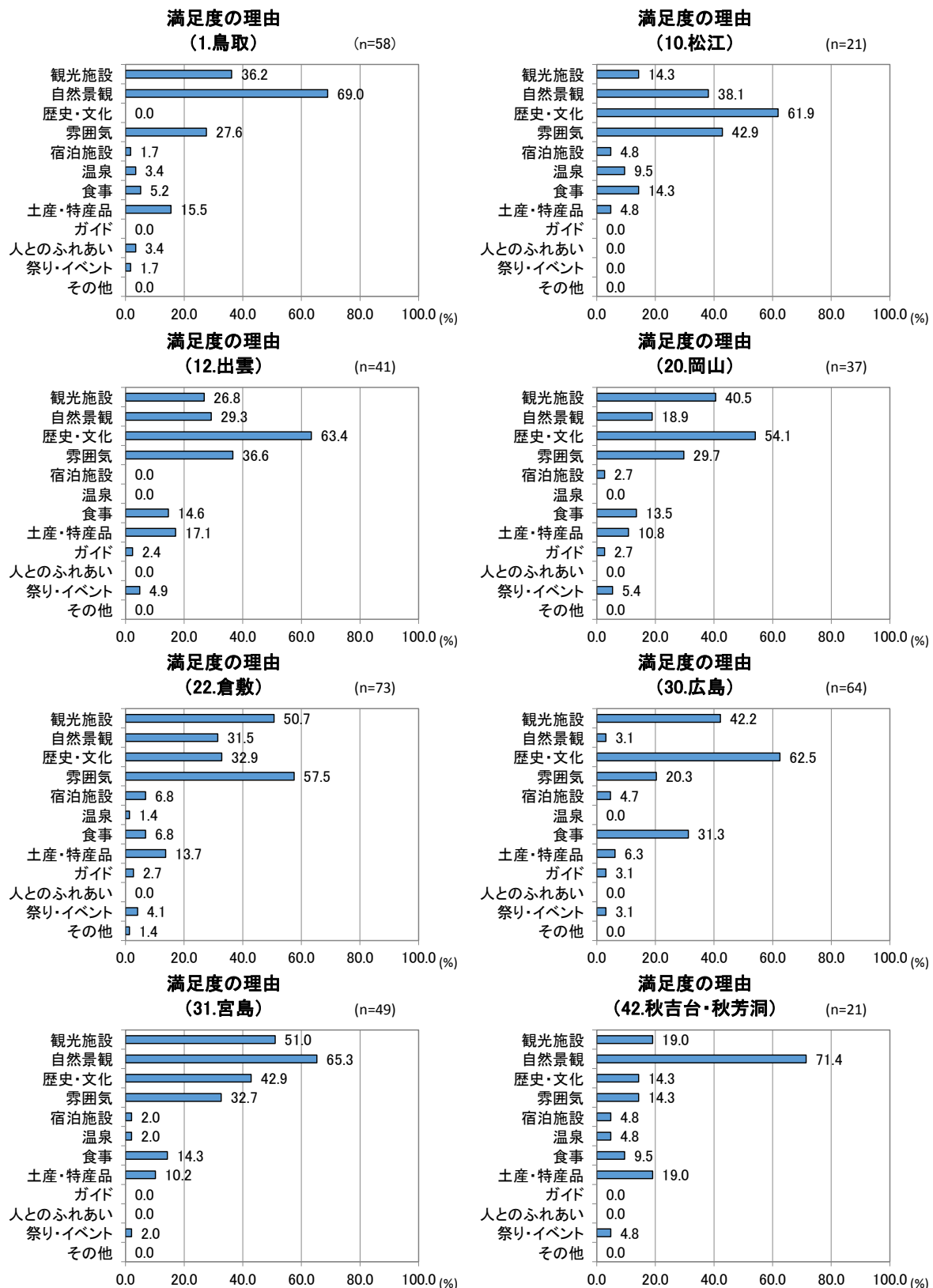
(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))



(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))



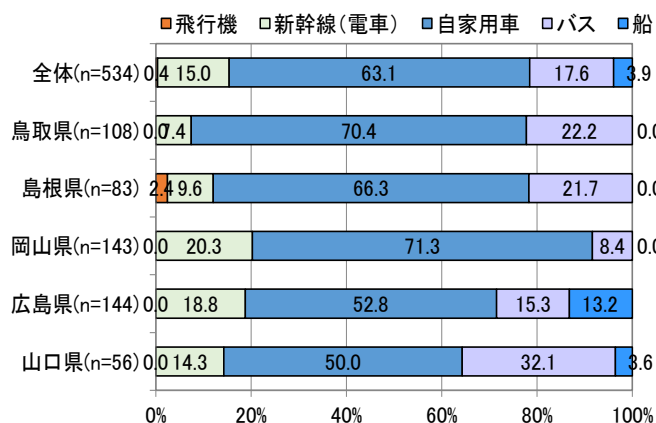
訪問経験者の多い地域（サンプル 20 名以上）について、それぞれ満足度評価の理由は以下のとおりである。鳥取、宮島、秋吉台・秋芳洞の「自然景観」、松江、出雲、岡山、広島
の「歴史・文化」など、各地域の特色が挙げられている。また、鳥取の満足度の理由とし
て「歴史・文化」を挙げる人は 0%という点も特徴である。



4) 交通手段

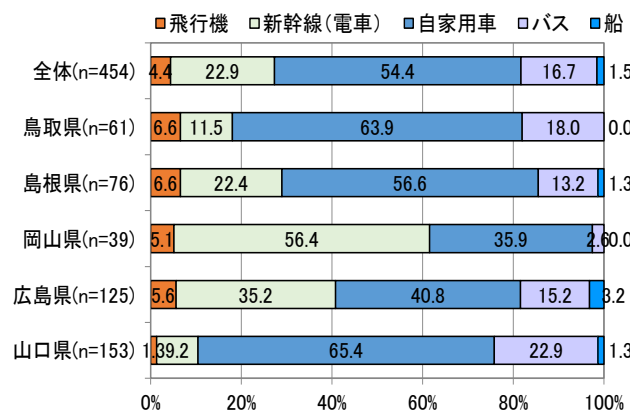
中国地方に訪問したことがある人を対象にして、主な交通手段をみると、「自家用車」が63.1%と最も多く、次いで「バス」が17.6%となっている。訪問県別にみると、広島県は「船」の割合が13.2%と他県に比べて多いことが特徴となっている。また、島根県は昨年度の九州圏、一昨年度の関西圏と比較して「自家用車」、「バス」の割合が多く、尾道松江線の影響がみられる。

交通手段(訪問県別)



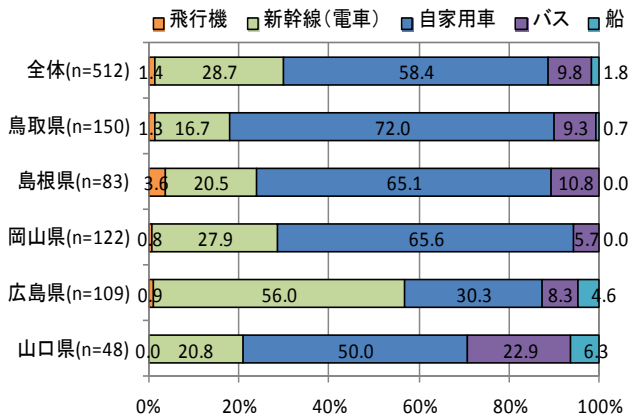
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

交通手段(訪問県別)



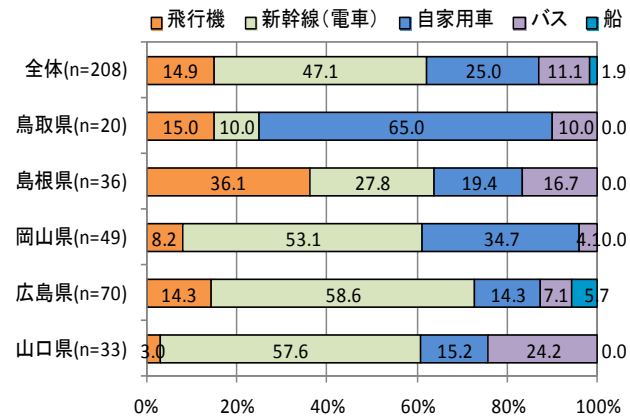
(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

交通手段(訪問県別)



(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

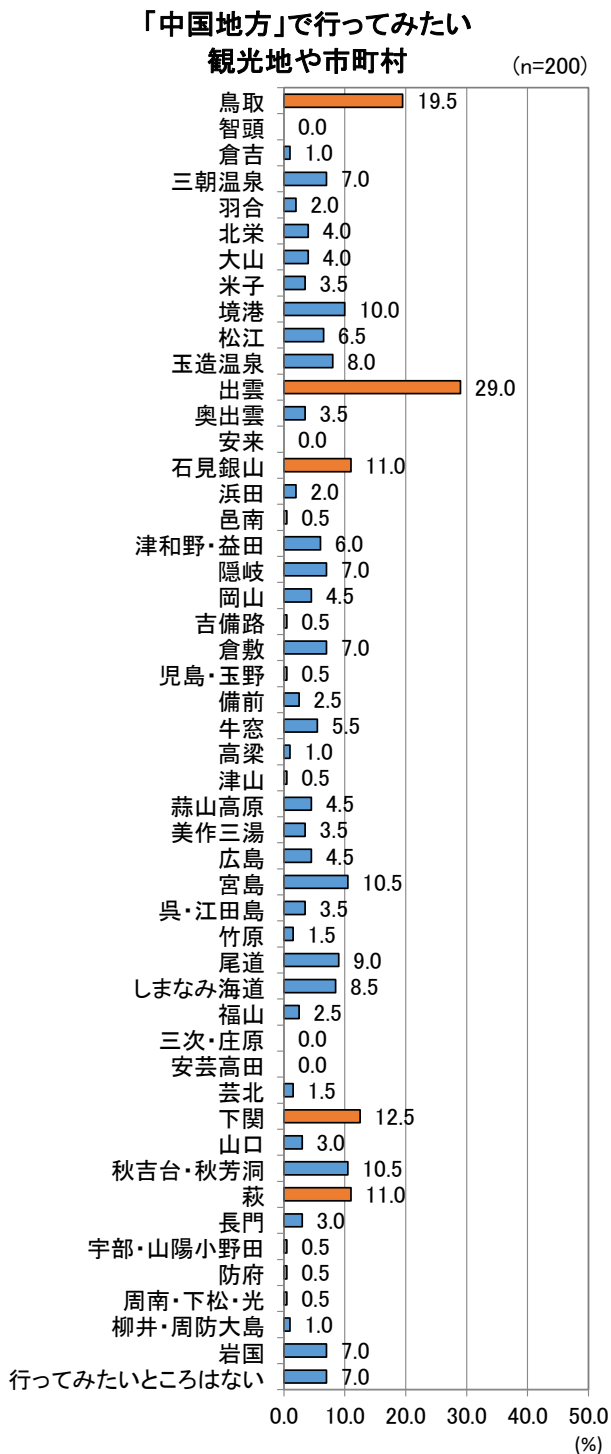
交通手段(訪問県別)



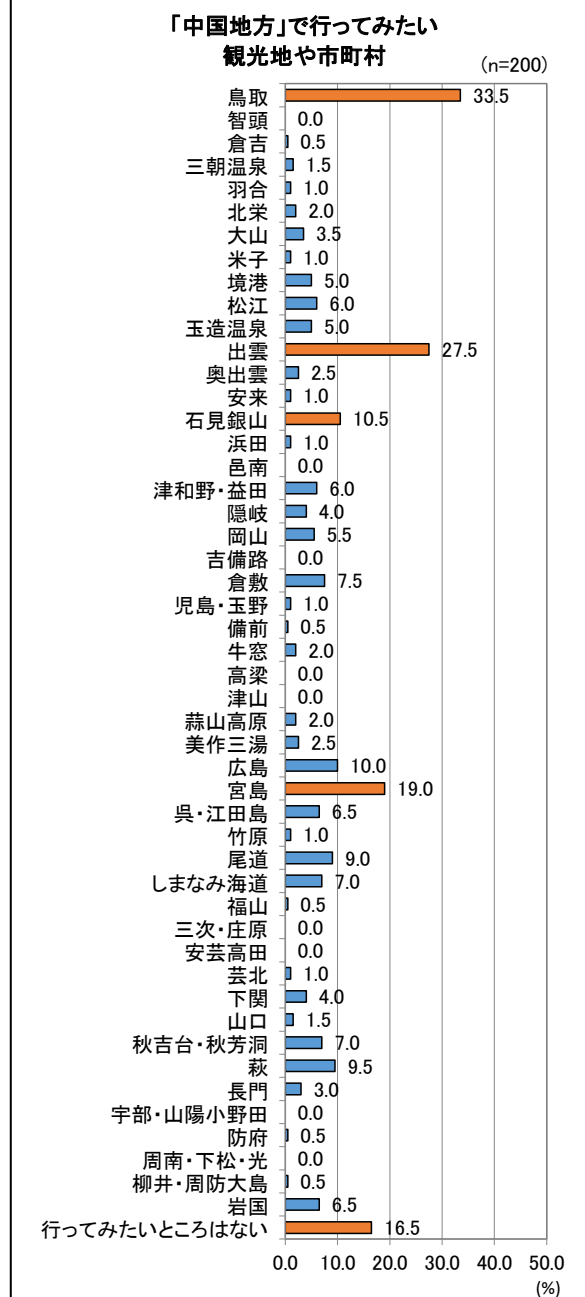
5) 訪問希望地

(1) 観光エリア別・全体集計

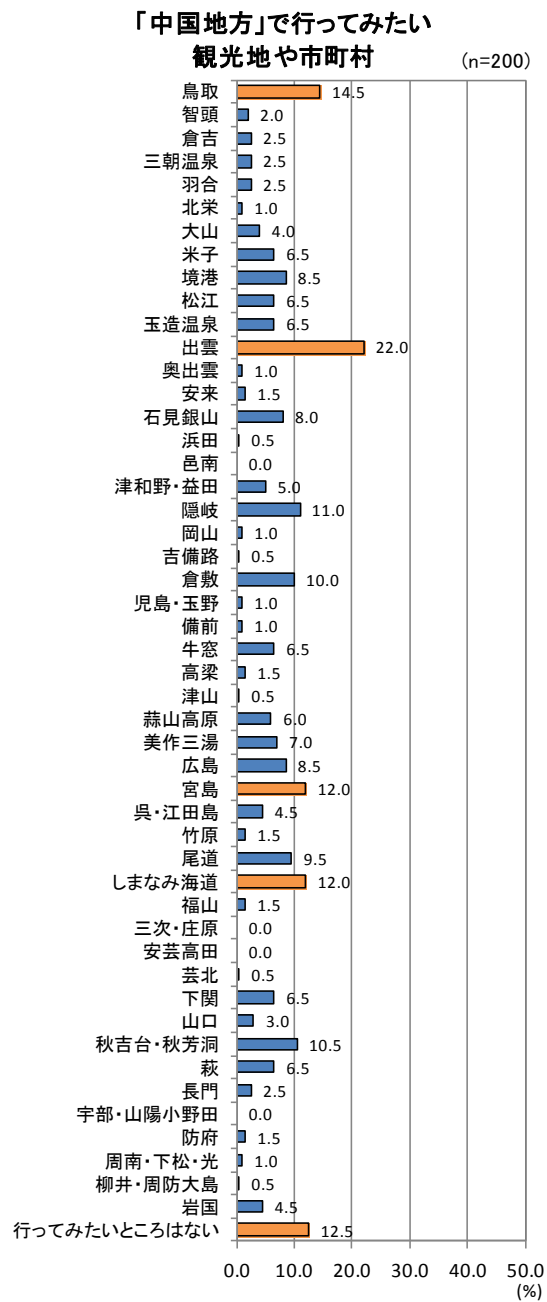
中国地方を49の観光エリアに分け、訪問してみたい観光地や市町村を3箇所まで聞いたところ、最も多かったのは出雲（29.0%）であり、次いで鳥取、下関となっている。倉敷、広島、宮島など既訪問率の高い地域は低くなっており、傾向としては関西圏の調査結果に類似している。



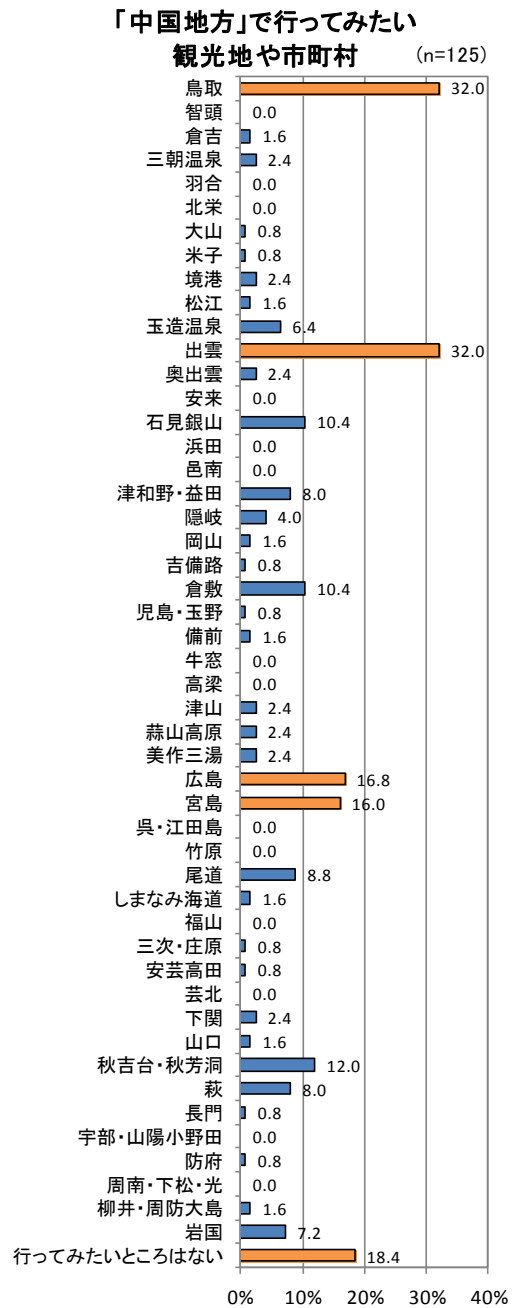
(参考: 九州圏調査結果(平成26年度))



(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))

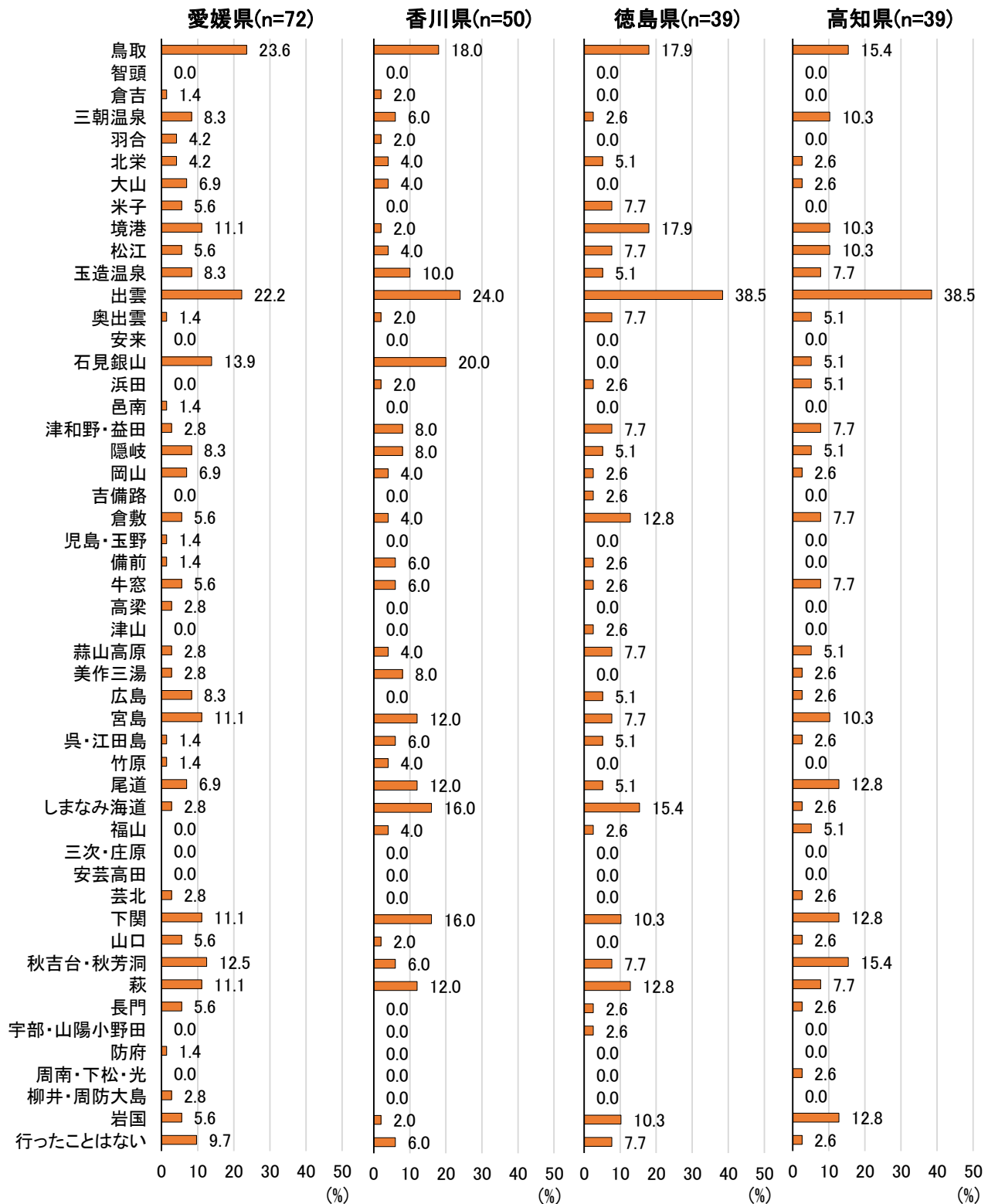


(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))



(2) 観光エリア別・居住県別集計

居住県別にみた場合、出雲が愛媛県で2位、他3県で1位となっている。出雲大社の「平成の大遷宮」は平成25年であったが、依然として訪問希望が多くなっている。



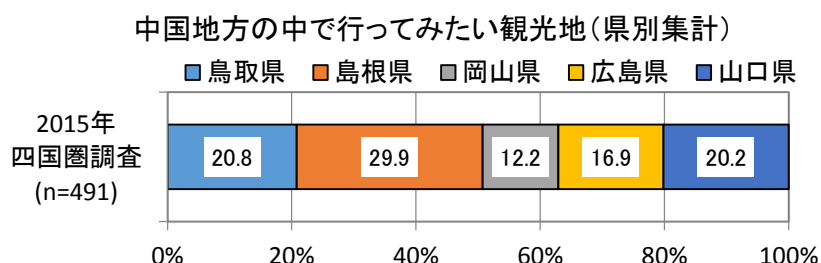
他の上位地域をみると、鳥取は愛媛県で1位、香川県で3位、徳島県、高知県では2位と各県とも上位に挙げられている。また、四国全体で3位の下関は、愛媛県、香川県、高知県で4～5位（徳島県は7位）と安定した評価となっている。石見銀山は愛媛県、香川県で上位に挙げられているが、徳島県、高知県では6位以下となっており、県によって差異がみられる。その他、しまなみ海道又は尾道が香川県、徳島県、高知県で4位となっており、今後、尾道周辺への訪問増加が期待される。

四国全体 (n=200)	愛媛県 (n=72)	香川県 (n=50)	徳島県 (n=39)	高知県 (n=39)
1位：出雲 (29.0)	1位：鳥取 (23.6)	1位：出雲 (24.0)	1位：出雲 (38.5)	1位：出雲 (38.5)
2位：鳥取 (19.5)	2位：出雲 (22.2)	2位：石見銀山 (20.0)	2位：鳥取 (17.9)	2位：鳥取 (15.4)
3位：下関 (12.5)	3位：石見銀山 (13.9)	3位：鳥取 (18.0)	2位：境港 (17.9)	2位：秋吉台・ 秋芳洞 (15.4)
4位：石見銀山 (11.0)	4位：秋吉台・ 秋芳洞 (12.5)	4位：しまなみ 海道	4位：しまなみ 海道 (15.4)	4位：尾道 4位：下関
5位：萩 (11.0)	5位：境港 5位：宮島 5位：下関 5位：萩 (11.1)	4位：下関 (16.0)	5位：倉敷 5位：萩 (12.8)	4位：岩国 (12.8)

※カッコ内は割合 (%)

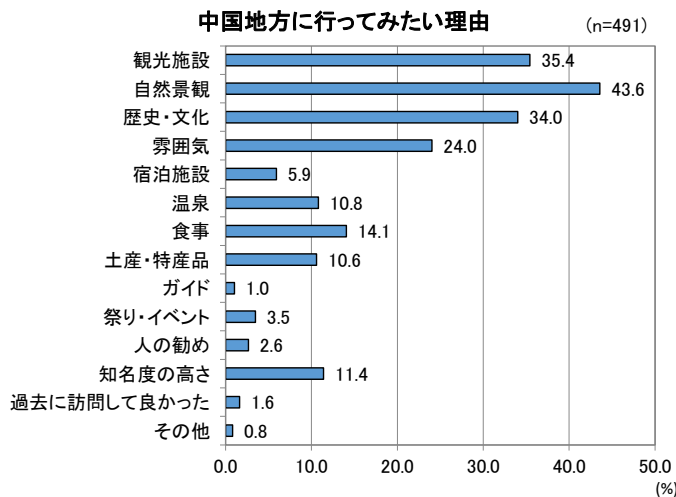
(3) 訪問県別集計

上記の回答を県別に合計したところ、島根県が29.9%と最も多く、ついで鳥取県20.8%、山口県20.2%となっており、山陰地方への訪問希望が高くなっている。

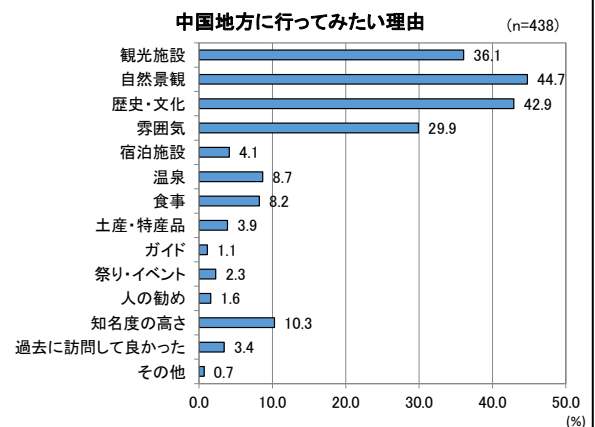


(4) 訪問希望の理由

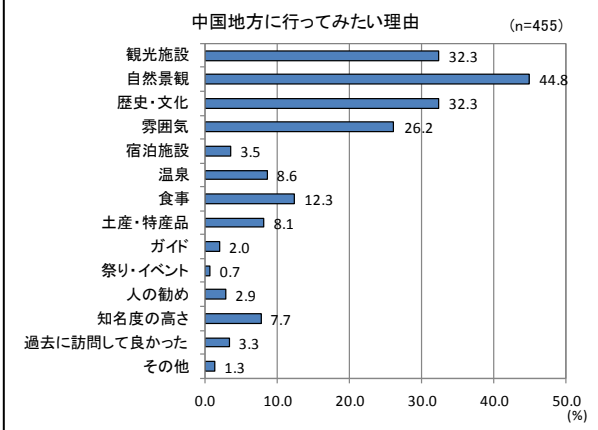
中国地方の各観光地（県）に行ってみたい理由としては「自然景観」が 43.6%と最も多くなっている。次いで「観光施設」「歴史・文化」「雰囲気」の割合が高く、上位 4 要素が中国地方の観光の魅力とイメージを形成しているといえる。宿泊施設、温泉、食事、土産・特産品、ガイド、祭り・イベント等は上位 4 要素よりも大きく低く、今後のイメージ強化が必要である。



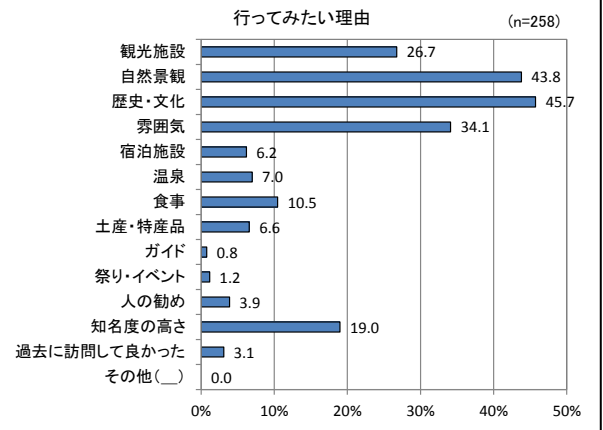
(参考:九州圏調査結果(平成 26 年度))



(参考:関西圏調査結果(平成 25 年度))



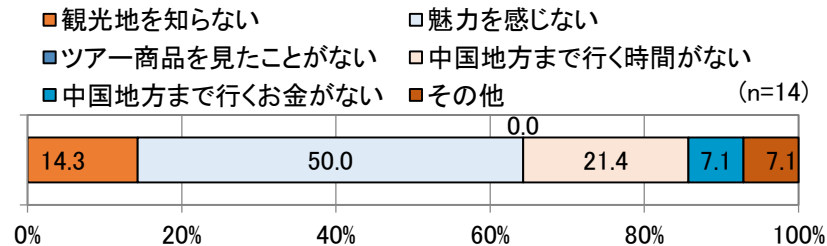
(参考:首都圏調査結果(平成 24 年度))



(5) 訪問希望が無い理由

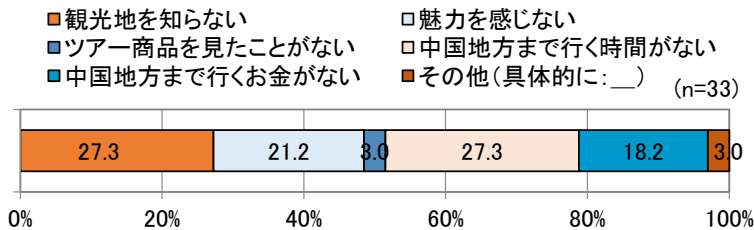
「行ってみたいところがない」と回答した人は14件と少ないが、その理由を聞いたところ、「魅力を感じない」という回答が50.0%と九州圏、関西圏よりも多くなっている。首都圏・関西圏・九州圏調査結果と比較して、「観光地を知らない」という回答は少ないことから、中国地方の魅力を分かりやすくアピールすることが必要である。

「中国地方」の観光地や市町村に行ってみたいところがない理由



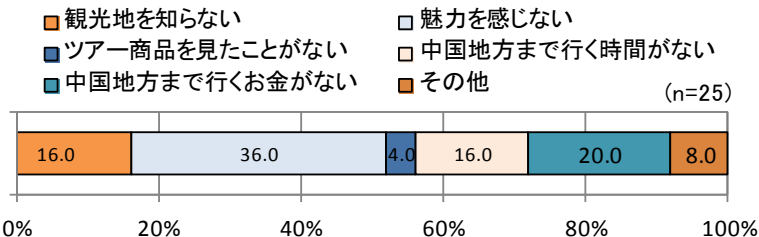
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

「中国地方」の観光地や市町村に行ってみたいところがない理由



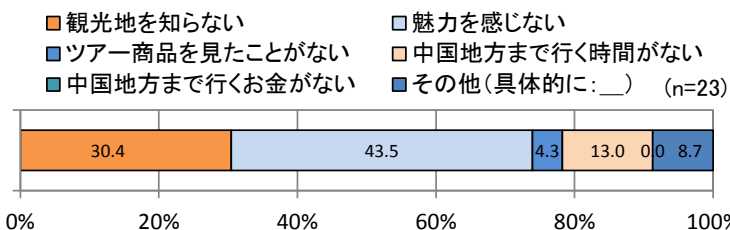
(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

「中国地方」の観光地や市町村に行ってみたいところがない理由



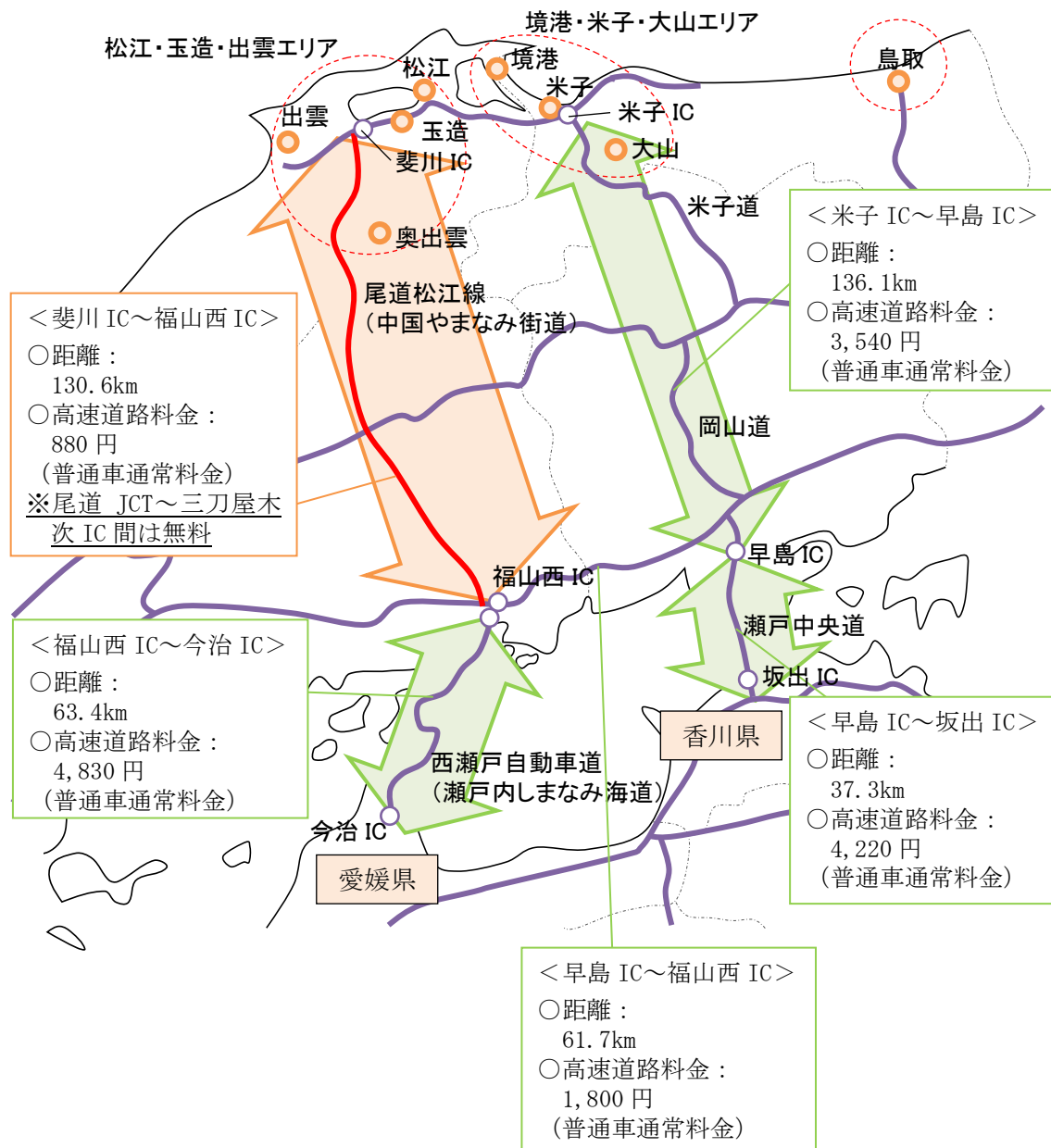
(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

「中国地方」の観光地や市町村に行ってみたいところがない理由



6) 尾道松江線に関連する地域の訪問経験・訪問希望

平成 27 年 3 月 22 日に尾道松江線（中国やまなみ街道）が全通した。尾道松江線は国と地方自治体の負担によって建設する新直轄方式で整備された高速道路であり、尾道北 IC から三刀屋木次 IC の間の通行料金は無料となっており、四国圏から尾道松江線沿線及び松江、出雲地域への来訪増加が期待される。本調査は平成 27 年 10 月末に実施しており、開通後半年経過時点における関係地域への訪問経験・訪問希望を居住県別にまとめた。



※距離、高速道路料金は NEXCO 西日本ホームページ掲載データを表示

尾道松江線の利用が考えられる松江・玉造・出雲エリアへの訪問経験について居住県別の構成比をみると、愛媛県からの訪問経験が高くなっており、尾道松江線の開通による影響がみられる。また、松江・玉造・出雲エリアへの訪問希望は徳島県、高知県で高くなっており、特に徳島県では訪問希望が訪問経験を 13.4 ポイント上回っている。

次に、米子・境港・大山エリアの訪問経験・訪問希望を県別にみると、愛媛県で訪問希望が高く、人口構成比を 10 ポイント以上、上回っている。

このことから、今後、松江・玉造・出雲エリアは徳島県、米子・境港・大山エリアは愛媛県、徳島県の両県へのPRにより誘客が期待される。

訪問先	県名 人口構成比	愛媛県 36.0%	香川県 25.0%	徳島県 19.5%	高知県 19.5%
松江・出雲・玉造エリア ※1	訪問経験 (n=72)	43.1%	25.0%	11.1%	20.8%
	訪問希望 (n=94)	28.7%	21.3%	24.5%	25.5%
米子・境港・大山エリア ※2	訪問経験 (n=31)	35.4%	22.6%	16.1%	25.8%
	訪問希望 (n=35)	48.6%	8.6%	28.6%	14.3%
鳥取	訪問経験 (n=58)	36.2%	29.3%	13.8%	20.7%
	訪問希望 (n=39)	43.6%	23.1%	17.9%	15.4%

四国地方4県の人口構成比との差が+10ポイント～、+5～+10ポイント、-5～-10ポイント、-10ポイント～で色分け
注：各県人口構成比に基づきサンプルを取得している（p1 参照）

※1：松江・出雲・玉造エリアは、松江、出雲、玉造温泉、奥出雲の数値を合計したもの

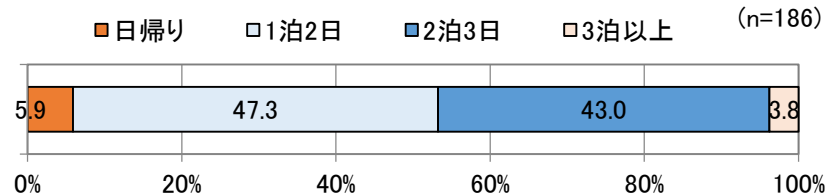
※2：米子・境港・大山エリアは、米子、境港、大山の数値を合計したもの

7) 中国地方への旅行

(1) 予定日数

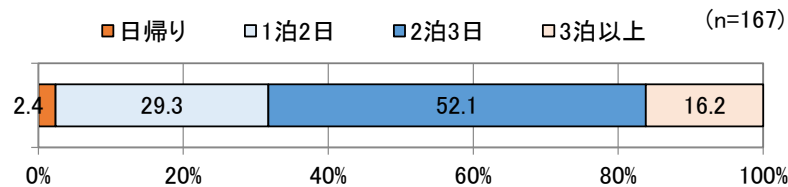
中国地方を旅行する場合の予定日数は、「1泊2日」が47.3%、「2泊3日」が43.0%と多く、関西圏調査と類似した結果となっている。

「中国地方」を旅行する場合の予定日数



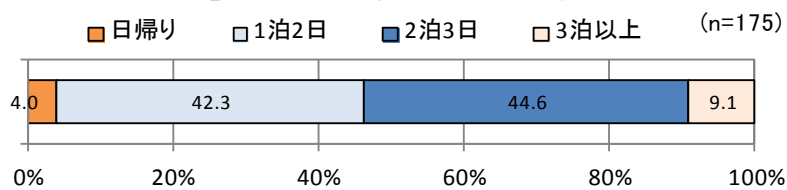
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

「中国地方」を旅行する場合の予定日数



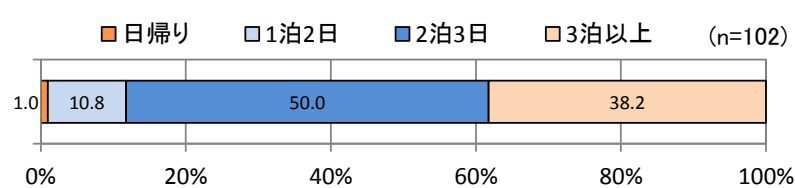
(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

「中国地方」を旅行する場合の予定日数



(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

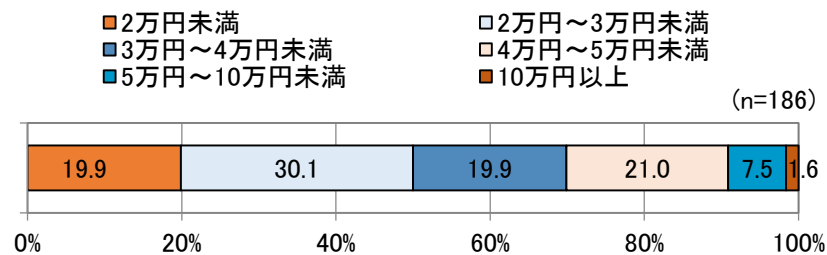
「中国地方」を旅行する場合の予定日数



(2) 費用

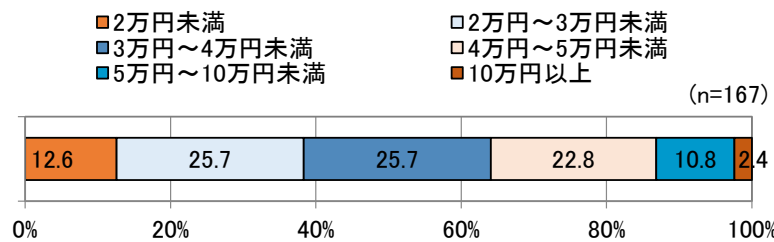
中国地方を旅行する場合の費用は、「2～3万円」30.1%と多くなっているほか、「2万円未満」、「3～4万円」、「4～5万円」もそれぞれ20%程度あり、交通手段や日程等により旅行費用に差が生じていると思われる。

「中国地方」旅行予定日数での妥当な一人分の費用



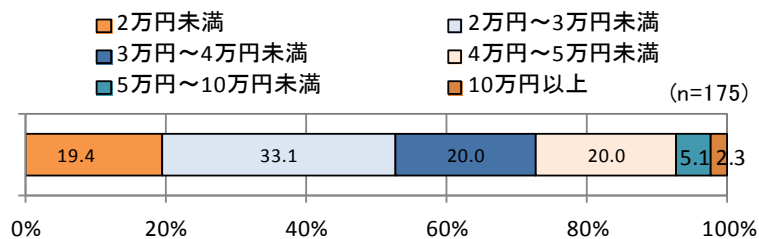
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

「中国地方」旅行予定日数での妥当な一人分の費用



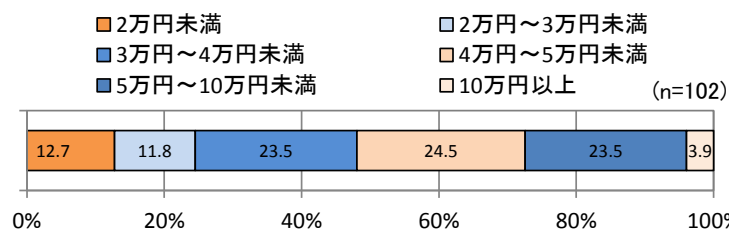
(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

「中国地方」旅行予定日数での妥当な一人分の費用



(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

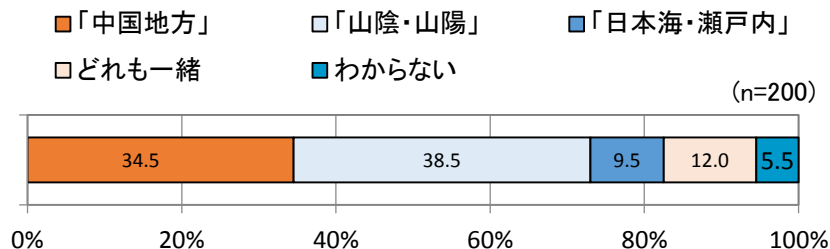
「中国地方」旅行予定日数での妥当な一人分の費用



8) 中国地方の名称

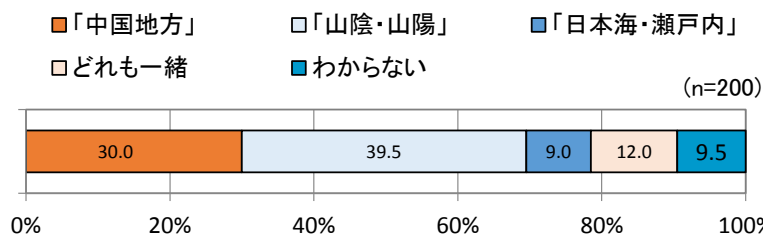
親しみやすさを感じる「中国地方」の名称を聞いたところ「山陰・山陽」が最も多く、約40%を占めている。

親しみやすさを感じる「中国地方」の名称



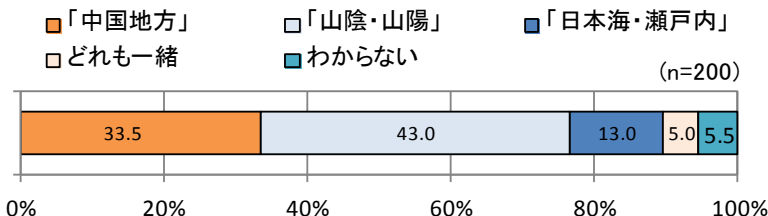
(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

親しみやすさを感じる「中国地方」の名称



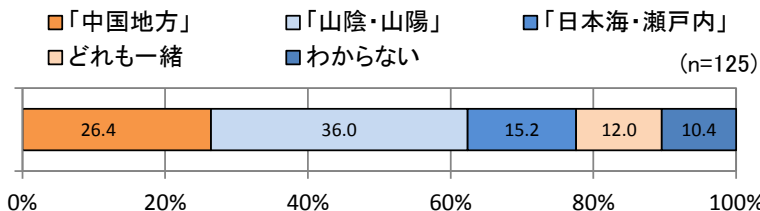
(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

親しみやすさを感じる「中国地方」の名称



(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

親しみやすさを感じる「中国地方」の名称



9) 中国地方のイメージ

中国地方のイメージについて自由に記載して頂いたところ、自然が多いイメージが多く、その他、観光地が多い、食べ物が美味しい、山陰と山陽ではイメージが違うなどの記載が多かった。

<自然が多いイメージ（自然が豊富・海がきれい等）> 26 件

自然あふれる	女性	20 歳代
自然がたくさん	女性	20 歳代
自然が多い	男性	40 歳代
自然が豊か	女性	20 歳代
自然が豊か	男性	30 歳代
自然が豊かである	男性	50 歳代
自然が豊か	女性	40 歳代
自然が豊富	女性	30 歳代
自然が良い	男性	60 歳代
自然を生かした観光スポットが多く、行ったことがない所がたくさんある	女性	50 歳代
自然景観のいいところが多い	男性	30 歳代
自然豊か。	女性	30 歳代
日本海	男性	40 歳代
日本海	女性	20 歳代
日本海と瀬戸内海に挟まれた独特の雰囲気	男性	40 歳代
日本海に惹かれます	女性	60 歳代
日本海の自然をみてみたい。	男性	40 歳代
日本海をゆっくり見てみたい	女性	60 歳代
景色	女性	20 歳代
景色が綺麗。	男性	40 歳代
砂丘	女性	30 歳代
広大な	男性	50 歳代
山地	女性	40 歳代
思いのほか山深い	男性	60 歳代
ひろい	女性	40 歳代
山間と海沿いの二つの自然が満喫できる	男性	30 歳代

<観光地の魅力に関するイメージ> 12 件

観光地が多い。	女性	20 歳代
観光地が多い。	女性	50 歳代
行ってみたい観光地がたくさんある	男性	30 歳代
すべてにバランスがとれた観光が可能	男性	40 歳代
見所が各地にある	男性	50 歳代
ちょうど良い距離の観光地	男性	40 歳代
世界遺産	女性	30 歳代

広島県は観光地として魅力がある。週末はビジネスホテルが満室である。	男性	40 歳代
知名度が非常に高いということはないので行きやすい	男性	40 歳代
観光地擦れしていないような気がする	女性	40 歳代
あまり知られていないけれど、すごい名所がたくさんある	女性	30 歳代
あまり知られていないので、新しい発見がありそう。	女性	50 歳代

<食に関するイメージ> 12 件

海の幸、山の幸	女性	30 歳代
海の幸が豊富	女性	20 歳代
海産物が美味しそう。特にフグ	女性	60 歳代
食べ物おいしい。	女性	30 歳代
食べ物が美味しい	女性	40 歳代
食べ物が美味しい	女性	30 歳代
食事がおいしい	男性	30 歳代
食べ物が豊富	女性	40 歳代
食べ物が美味しい。	女性	30 歳代
お料理が美味しそう。	女性	50 歳代
日本海の幸と瀬戸内海の幸を楽しめる。	男性	30 歳代
豊富な海の幸を楽しめそう	女性	50 歳代

<山陰と山陽でのイメージの違い> 12 件

山陰と山陽では全くイメージが違う。	女性	50 歳代
山陰地方は田舎っぽいが、落ち着く。山陽は、結構せわしない。	男性	60 歳代
山陰地方の自然・気候条件の厳しさと山陰地方(特に広島市)の華やかさ。	男性	60 歳代
暗い感じの山陰、明るい感じの山陽	男性	60 歳代
岡山や広島は栄えているが、その他は田舎	女性	20 歳代
山陰側の美味しいものと温泉	男性	70 歳代
山陰地方は自然豊かで食べ物がおいしいイメージがある。瀬戸内側は温暖な気候で関西へのアクセスがよい。	女性	50 歳代
瀬戸内沿岸で穏やかな気候。山陰は地味な感じ。	女性	30 歳代
山陽と山陰で違った雰囲気がある田舎	女性	30 歳代
日本海側は、素朴な雰囲気。瀬戸内側は、温かみのある雰囲気。	男性	40 歳代
中国地方という、連携は感じない。個々の県で、それぞれ別々。	男性	50 歳代
瀬戸内海、日本海側で、産業や交通や都会と田舎県など、まったく違う	男性	50 歳代

<田舎・のんびりというイメージ> 10 件

のんびり	女性	30 歳代
のんびり	男性	50 歳代
のんびりしている	女性	40 歳代
ゆっくり出来そう	女性	50 歳代

少し田舎だけど、だから静かで景色もきれいそう	女性	40 歳代
田舎	女性	30 歳代
田舎、暗い。	女性	30 歳代
田舎じみたくつろぎがある。	男性	60 歳代
過疎 田舎	女性	60 歳代
田舎だけどたくさんいいところがある	女性	30 歳代

<歴史的なイメージ> 7 件

歴史	男性	60 歳代
歴史がある	男性	30 歳代
歴史的な街並み	女性	50 歳代
歴史的な場所が多いので、訪れてみたい。	女性	50 歳代
歴史がある	女性	50 歳代
名城多し	男性	40 歳代
毛利元就	男性	40 歳代

<温泉があるイメージ> 7 件

温泉がいい	男性	30 歳代
いろいろな温泉がある	男性	60 歳代
温泉がたくさんある	男性	40 歳代
温泉	女性	30 歳代
温泉がたくさんある。	男性	30 歳代
良い温泉がある。	男性	60 歳代
温泉	男性	60 歳代

<アクセスに関する内容> 5 件

近い	女性	40 歳代
近い	女性	30 歳代
近い	男性	60 歳代
近くにあって気軽に訪問できる。	女性	40 歳代
車で行ける	女性	50 歳代

<その他の良いイメージ>

関東、東北地方より天候が良い。	男性	40 歳代
自然と歴史と都市が共存した地域	男性	30 歳代
街は便利	男性	30 歳代
身近の都会	女性	30 歳代
色々な名産品がある	女性	30 歳代
カープ	男性	20 歳代
スキーが出来る	男性	40 歳代
中途半端	男性	40 歳代

庭。	男性	40 歳代
本州への入口	男性	60 歳代

<その他のあまり良くないイメージ>

高速道路が十分でなく、多少車移動が不便。	男性	60 歳代
自分の住んでいる地域からの交通の便が悪い	女性	40 歳代
交通が不便	男性	50 歳代
交通手段があまりなさそう	女性	40 歳代
暗い	女性	40 歳代
寒い	男性	40 歳代
山陰は雪が降り寒そう	女性	20 歳代
山陰は地味	女性	40 歳代
小さい	女性	40 歳代
少し地味	女性	30 歳代
地味	男性	50 歳代
地味	男性	40 歳代
地味な観光地	男性	40 歳代
観光施設はなにがあると聞かれてもすぐに思いつかない	男性	30 歳代
パツとしない	男性	30 歳代
ちょっと不便	男性	30 歳代
行きたいと思わない	女性	30 歳代

10) 中国地方の特産品

中国地方の特産品について思い付くものを3つまで記載して頂いたところ、もみじ饅頭、お好み焼き、カキが多く、首都圏・関西圏・九州圏調査結果に比べると、カニやそばが上位に挙がっている。

もみじ饅頭	45
お好み焼き	41
カキ(牡蠣)	34
フグ(河豚)	33
カニ(蟹)	26
もも(桃)	19
そば(出雲そば、瓦そば含む)	18

きびだんご	14
ぶどう・マスカット	9
梨	8
のどぐろ	7
吉備団子	6
しじみ	5

(参考:九州圏調査結果(平成26年度))

もみじ饅頭	42
ふぐ(ふく、トラフグ)	37
カキ(牡蠣)	36
お好み焼き	26
もも	9
きび団子	9
萩焼	8
しじみ	8

(参考:首都圏調査結果(平成24年度))

牡蠣	24
もみじ饅頭	19
ふぐ	15
お好み焼き(広島焼き)	15
きび団子	11
桃	10
マスカット・ぶどう	8
梨(二十世紀梨、鳥取の梨)	4

(参考:関西圏調査結果(平成25年度))

もみじ饅頭	45
牡蠣	35
梨(二十世紀梨、鳥取の梨)	25
ふぐ	24
もも	19
きび団子	18
お好み焼き(広島焼き)	14
マスカット・ぶどう	11

11) 周遊ルート

中国地方を旅行する場合、周遊したいと思われるルートについて自由記述をしてもらったものを、起点となる県別に整理した。岡山県を起点するルートを回答した人が多く、中国地方全県や4県を巡るという回答は岡山県起点が多かった。鳥取、島根、広島、山口を基点とする場合は、2県程度を周遊するという回答が多くなっている。

起点	ルート	自由記述内容	居住県	
鳥取起点 10	中国地方周遊	鳥取→島根→山口→広島→岡山	香川県	
	鳥取→島根→山口	鳥取-米子-出雲-山口	徳島県	
		倉吉-松江-出雲-萩	徳島県	
	全県 1 4県 0 3県 2 2県 6 1県 1	鳥取→島根	鳥取→出雲	高知県
		鳥取→松江→出雲	高知県	
		鳥取→島根	愛媛県	
		大山→鳥取砂丘→出雲大社	愛媛県	
		三朝→松江→出雲	高知県	
		鳥取→岡山	倉吉→米子→ひるぜん	香川県
	鳥取県内	鳥取から大山	高知県	
島根起点 10	島根→岡山→広島	出雲→倉敷→福山→呉	愛媛県	
	島根→鳥取	島根→鳥取	愛媛県	
		松江→出雲→温泉津→米子	香川県	
		松江→鳥取	愛媛県	
		松江→米子	高知県	
	全県 0 4県 0 3県 1 2県 6 1県 3	島根→広島	出雲→呉→尾道	愛媛県
	島根→山口	出雲→益田→長門→下関	愛媛県	
	島根県内	松江から出雲	高知県	
		出雲	高知県	
		出雲大社→石見銀山	徳島県	
岡山起点 32	中国地方周遊	岡山 鳥取 島根 山口 広島	香川県	
	全県 8 4県 6 3県 8 2県 9 1県 1	岡山広島山口島根鳥取	高知県	
		岡山→鳥取→島根→山口→広島	高知県	
		岡山→鳥取→島根→山口→広島	香川県	
		岡山-倉敷-鳥取-出雲-萩-宮島	徳島県	
		岡山→広島→山口→島根→鳥取→岡山	高知県	
		岡山→広島→萩→松江→米子→鳥取	香川県	
		岡山→尾道→下関→出雲→鳥取	香川県	
		岡山→鳥取→島根→山口	岡山-鳥取-島根-山口	愛媛県
	岡山→島根→山口→広島	岡山-島根-山口-広島	徳島県	
		岡山-新見-出雲-江津-益田-萩-長門	香川県	
		岡山→広島→島根→鳥取	岡山→広島→島根→鳥取	徳島県
	岡山→広島→山口→島根	岡山→広島→山口→島根→岡山	高知県	
		岡山→広島→下関→松江→岡山	高知県	
	岡山→鳥取→島根	倉敷→米子→松江	徳島県	
		岡山→総社→高梁→津山→鳥取→米子→松江→安来	愛媛県	
	岡山→島根→広島	倉敷→出雲→広島	愛媛県	
	岡山→広島→鳥取	岡山、広島、鳥取	香川県	

		岡山→広島→島根	倉敷 宮島 出雲	香川県
		岡山→広島→山口	岡山から広島から山口	愛媛県
			倉敷-宮島-岩国	高知県
			岡山→広島→岩国→下関	愛媛県
		岡山→鳥取	倉敷→津山→鳥取	香川県
			岡山→倉吉	愛媛県
			高梁→津山→鳥取	愛媛県
		岡山→島根	岡山→津山→松江	徳島県
		岡山→島根	津山→松江→出雲→倉敷	愛媛県
		岡山→広島	倉敷→備前→宮島→広島	香川県
			岡山 広島	徳島県
			岡山市 広島	徳島県
			岡山→新見→三次→広島→尾道→今治	高知県
		岡山県内	倉敷から岡山	高知県
広島起点 24	全県 0 4県 0 3県 4 2県 15 1県 5	広島→島根→鳥取	広島→島根→鳥取	徳島県
		広島→島根→岡山	尾道→松江→津山	香川県
		広島→島根→山口	広島→出雲→山口	高知県
		広島→山口→鳥取	尾道→下関→倉吉	徳島県
		広島→鳥取	しまなみ 広島 鳥取	愛媛県
		広島→岡山	宮島→広島→倉敷→岡山	愛媛県
			広島 呉 鞆の浦 倉敷	徳島県
		広島→山口	宮島、国	香川県
			しまなみ街道→広島県→下関→博多	愛媛県
			松山→今治→尾道→呉→下関	愛媛県
			尾道→岩国→下関	香川県
			尾道→呉→下関→福岡	愛媛県
			尾道→呉→岩国、	愛媛県
			宮島→下関→萩	愛媛県
			宮島→萩	愛媛県
			広島 →下関→萩	愛媛県
			広島→呉→山口→下関→本州最西端の場所	高知県
			広島→萩→下関	愛媛県
			広島から山口 萩	愛媛県
		広島県内	尾道から広島	高知県
			広島→宮島	香川県
			宮島→尾道	香川県
			広島 宮島 尾道	香川県
			しまなみ海道	愛媛県
山口起点 11	全県 0 4県 0 3県 1 2県 4 1県 6	山口→島根→広島	山口→島根→広島	香川県
		山口→島根	下関→萩→津和野	高知県
			岩国→萩→津和野	愛媛県
		山口→広島	岩国→広島→呉	愛媛県
			自宅→角島→広島→自宅	愛媛県
		山口県内	下関 長門 萩	愛媛県
			下関→萩	高知県
			下関から萩	高知県
			下関→門司港→萩	香川県
			下関→門司	徳島県
			山口萩の史跡巡り	愛媛県

3. まとめ

(1) 四国圏と九州圏、首都圏、関西圏の特徴比較

	四国圏在住者		九州圏在住者 H26 年度調査		関西圏在住者 H25 年度調査		首都圏在住者 H24 年度調査	
訪問した ことのある観 光地	①倉敷	36.5%	①宮島	28.0%	①鳥取	35.5%	①広島	26.4%
	②広島	32.0%	②秋吉台・秋 芳洞	25.0%	②広島	28.5%	②宮島	20.0%
	③鳥取	29.0%	③広島	24.5%	③倉敷	27.0%	③倉敷	19.2%
	③宮島	24.5%	③下関	24.5%	④宮島	19.0%	④出雲	13.6%
	⑤出雲	20.5%	⑤出雲	17.0%	⑤出雲	18.5%	⑤岡山	11.2%
	行ったことは無い	5.5%	行ったことは無い	16.5%	行ったことは無い	8.0%	行ったことは無い	31.2%
訪問したこ とのある県	①広島県	27.0%	①山口県	33.7%	①鳥取県	29.3%	①広島県	27.3%
	②岡山県	26.8%	②広島県	27.5%	②岡山県	23.8%	②島根県	25.1%
未訪問理由	①きっかけがない	54.5%	①きっかけがない	72.7%	①きっかけがない	81.3%	①きっかけがない	71.8%
	②遠い	18.2%	②時間が無い	21.2%	②時間が無い	18.8%	②遠い	53.8%
	②話題にならない	18.2%	③旅費が高い	18.2%	③遠い	12.5%	③旅費が高い	20.5%
	②時間が無い	18.2%	③遠い	18.2%				
	情報が少ない	9.1%	情報が少ない 話題にならない	6.1% 12.1%	情報が少ない 話題にならない	0.0% 0.0%	情報が少ない 話題にならない	12.8% 12.8%
満足度	全体	62.5%	全体	61.5%	全体	59.8%	全体	62.8%
満足度理由	①観光施設	38.4%	①自然景観	38.5%	①自然景観	38.5%	①歴史・文化	47.3%
	②自然景観	36.7%	②歴史・文化	33.8%	②観光施設	35.0%	②自然景観	41.5%
	③歴史・文化	33.7%	③雰囲気	33.2%	③歴史・文化	33.4%	③観光施設	30.0%
行ってみたい 観光地	①出雲	29.0%	①鳥取	33.5%	①出雲	22.0%	①鳥取	32.0%
	②鳥取	19.5%	②出雲	27.5%	②鳥取	14.5%	①出雲	32.0%
	③下関	12.5%	③宮島	19.0%	③宮島	12.0%	③広島	16.8%
	④石見銀山	11.0%	④石見銀山	10.5%	③しまなみ海道	12.0%	④宮島	16.0%
	④萩	11.0%	⑤広島	10.0%	⑤隠岐	11.0%	⑤秋吉台・秋芳洞	12.0%
	行ってみたい ところはない	7.0%	行ってみたい ところはない	16.5%	行ってみたい ところはない	12.5%	行ってみたい ところはない	18.4%
旅行予定日 数	①1泊2日	47.3%	①2泊3日	52.1%	①2泊3日	44.6%	①2泊3日	50.0%
	②2泊3日	43.0%	②1泊2日	29.3%	②1泊2日	42.3%	②3泊以上	38.2%
特産品イメ ージ	①もみじ饅頭	45人	①もみじ饅頭	42人	①もみじ饅頭	45人	①牡蠣	24人
	②お好み焼き	41人	②ふぐ	37人	②牡蠣	35人	②もみじ饅頭	19人
	③牡蠣	34人	③牡蠣	36人	③梨	25人	③ふぐ	15人
	④ふぐ	33人	④お好み焼き	26人	④ふぐ	24人	③お好み焼き	15人
	⑤カニ	26人	⑤もも	9人	⑤もも	19人	⑤きび団子	11人
	⑤きび団子	9人						
傾向・特徴	・1泊2日又は2泊3日 の日程で岡山、広島 を入口として周遊 ・観光資源により重きを 置いて評価 ・未訪問の理由として 話題にならないが2割 弱		・2泊3日までの日程で 山口～広島を周遊 ・自然景観、歴史・文化 を同等に評価 ・未訪問の理由として情 報が少ないが1割弱、 話題にならないが1割 強		・2泊3日までの日程で 広島・宮島及び鳥取 ～岡山を周遊 ・自然景観、歴史・文化 を同等に評価 ・未訪問理由として情 報が少ない、話題に ならないという理由は 無し		・2泊3日以上で 島根、広島を中心に 中国地方を満遍なく 周遊 ・歴史・文化により重き を置いて評価 ・未訪問理由として情 報が少ない、話題に ならないが1割強	

(2) 四国圏在住者の特性に着目した活用資源

○近距離にある観光資源の豊富な地域というイメージを活かしたファン獲得

中国地方の満足度理由は美術館・博物館や水族館などの「観光施設」が最も高く、訪問希望においても「行ってみたいところはない」割合が7.0%と首都圏、関西圏、九州圏に比べて低い値となっていることから、四国圏から観た中国地方は、近距離にある観光資源の豊富な地域として捉えられていることがわかる。倉敷、広島、鳥取、宮島など既に訪問経験率の高い地域の満足度を高め、ファン・リピーターの獲得による継続的な誘客増加を図ることが必要である。

○尾道松江線を活用した誘客促進

松江・玉造・出雲エリアへの訪問経験について居住県別の構成比をみると、愛媛県からの訪問経験が高く、平成27年3月22日に全通した尾道松江線の影響がみられると推定される。今後も、尾道松江線を活用し、四国圏から松江・玉造・出雲エリアを目的地として、米子・境港・大山エリアや石見銀山、鳥取などへの広域的周遊行動の誘発を促すことが必要である。

○自家用車で訪来者に向けた広域周遊ルート形成

四国圏から中国地方を訪れた際の交通手段は自家用車利用が大半であり、岡山、広島を起点とした周遊希望が多く挙がった。「せとうち・海の道」が観光庁の広域観光周遊ルートに認定されており、山陽を訪れる観光客の増加が期待される中、岡山、広島を起点として山陽・山陰を結ぶ広域周遊ルートを形成することにより、山陰へも誘客することが望まれる。具体的には、既に「中国やまなみ街道」として沿線紹介パンフレットが作成・配布されており、四国圏からの誘客促進ツールとして更に活用・発信を行うことが必要である。また、平成27年3～6月には「瀬戸内周遊ドライブパス2015(山陽周遊編)」、8～11月には「ぶらり中国ドライブパス2015」など、関西、四国、九州からETC利用による定額の周遊割引が実施されており、今後の恒常的な展開に向け、地元負担の検討等、周遊施策の支援体制の整備が必要である。

(3) 今後のプロモーション

○ローカルメディアでの露出増加による情報提供

中国地方に行ったことがない理由としては、「きっかけがない」という消極的な理由が一番多いことは過去他圏域調査と同様であるが、「遠い」「話題にならない」「時間が無い」という回答が2割弱あった。また、関西圏と比較すると「情報が少ない」「話題にならない」が多く、四国圏の地元メディア（テレビ、新聞、雑誌等）における露出が少ないものと思われる。前述の尾道松江線の話題など、地元メディアを中心としたプロモーションを更に充実させることが求められる。

○尾道松江線沿線など中国山地のPR

中国地方のイメージに関する自由記述では、自然が豊か、海がきれいといった自然景観のイメージが多く挙げたが、その中で山陽、山陰のイメージの違いに関する記述も多く見られた。四国圏からは、隣接する岡山県、広島県の訪問経験が多いが、訪問希望は出雲、鳥取が高くなっており、中国山地及び山陰の魅力のPRを進めることが必要である。特に、尾道松江線は、各インターチェンジでの乗り降りが自由であることから、既に行われている沿線自治体、観光協会が連携したPR活動を更に充実させ、起終点となる尾道、松江・出雲のみならず、世羅、三次、庄原、奥出雲、雲南など沿線地域の周遊性の向上や滞在時間の延長を図ることが重要である。

○各県別のアプローチ

松江・玉造・出雲エリアへの訪問希望は、特に徳島県で訪問希望が高くなっており、また、米子・境港・大山エリアについては愛媛県、徳島県の訪問希望が高いことから、今後、各エリアへの訪問希望が高い県へのPRが誘客促進に効果的であると考えられる。また、愛媛県、香川県の訪問希望では石見銀山が上位に挙げられており、愛媛県、香川県に対して、尾道松江線と併せて石見地域への周遊ルートをPRすることが効果的であると考えられる。

(4) 受入環境の充実

中国地方の満足度の理由として「観光施設」が挙げられ、自然景観、歴史・文化、雰囲気などの要素を含め中国地方の観光の魅力が形成されている一方、宿泊施設、温泉、ガイドなどの満足度の評価は低くなっている。今後、中国地方全体の満足度を高めるため、宿泊施設、温泉、ガイドなど、各地の受入環境の一層の充実が必要である。